

平成 30 年度 研修報告書

小小連携を生かした不登校未然防止の研究

～中学校生活に適応するために必要な力や態度の育成を目指して～

兵庫県立教育研修所 義務教育研修課

不登校対策推進に係る研修員

内藤 博祥

目 次

研究の要約	1
1 問題と目的	1
(1) 不登校の現状	
(2) 不登校の要因・背景	
(3) 不登校の未然防止のための小小連携	
(4) 研究の目的	
(5) 研究協力校の背景	
2 研究1 中学生を対象とした中学校進学に対する意識調査	4
(1) 取組の概要	
(2) 結果	
(3) 考察	
(4) まとめ	
3 研究2 中学校進学時の不安を減少させることをねらいとした取組の実践	13
(1) 研究の目的	
(2) 実践の方法	
(3) 実践の効果検証の方法	
(4) 「A：小小連携による取組」の実践	
(5) 「B：中学校進学に向けてつきたい力を身につける取組」における実践	
(6) 「C：職員間の連携の充実を図る取組」の実践	
(7) アンケート結果	
(8) アンケート結果の考察	
(9) 取組による児童の変容	
4 総合考察	28
(1) 今回の取組による効果	
(2) 不登校未然防止の視点から	
5 まとめと今後の課題	28
【引用・参考文献】	29
【別添資料】	31

研究の要約

本研究は、小規模の小学校を対象として、小学生の持つ中学校生活への不安感を軽減して、小学校から中学校へのスムーズな移行を促し、更に、中学校生活により適応しやすくするために必要な力と態度を身につけられるような小小連携の在り方を考察する。そこで、「①中学生に向けたアンケートを実施し、中学校に向けての不安を少しでも減らせるように、効果的な小小連携の取組や、中学校進学に向けて身につけたい力を明らかにする。」、「②小小連携による取組を実践し、その効果を検証するとともに、より効果的な小小連携の取組内容の指針を明らかにする。」の2つを目的とした。

同一中学校区にあるA小学校、B小学校及びC中学校に協力を依頼し、児童生徒及び教員を対象として、研究に取り組んだ。研究1では、C中学校でアンケート調査等を実施し、中学校進学への不安を減らすために効果的な小小連携の取組における指針や、中学校進学に向けて身につけたい力を明らかにした。研究2では研究1の結果を踏まえ、「A：小小連携による取組」、「B：中学校進学に向けて身につけたい力を身につける取組」、「C：職員間の連携の充実を図る取組」の3つの取組を行い、その効果を検証した。

その結果、「A：小小連携による取組」については、他の小学校児童と仲間づくりをねらいとした取組を行うことで、中学校に向けての不安が減少することが明らかになった。「B：中学校進学に向けて身につけたい力を身につける取組」については、学習面や生活面のスキルアップをねらいとした授業を行ったが、取組時間が短かったこともあり、十分な効果は得られなかった。「C：職員間の連携の充実を図る取組」については、C中学校区の全教員による合同研修会で児童生徒の共通理解を図ったり、取組の打ち合わせを充実させたりしたことで小小連携を中心とした今回の一連の実践を円滑に進めることができた。

1 問題と目的

(1) 不登校の現状

文部科学省（以下、文科省）が実施した「平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」によると、平成29年度の不登校の児童生徒数は、小学校で35,032人、中学校で108,999人となっている。全体での児童生徒数が減っているにもかかわらず、不登校児童生徒数は、平成25年以降5年連続で増加しており、統計を取り始めてから最多の人数になっている。また、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒の割合も過去最多となっている。学年別の不登校児童生徒数については、図1のように小学校6年生で10,894人であったものが、中学校1年生では27,992人となっており急増している（文科省、2018）。

本県においても、不登校児童生徒数は、小学校で1,490人（前年度より379人増加）、中学校で4,979人（前年度より559人増加）となっており、ここ2年連続で過去最多を更新している（図2、図3）。小学校においては、不登校児童の割合が全国での割合に近づいてきており、中学校においては、既に全国よりも多くなっている。全国同様に、兵庫県においても不登校の児童生徒への対策が求められて

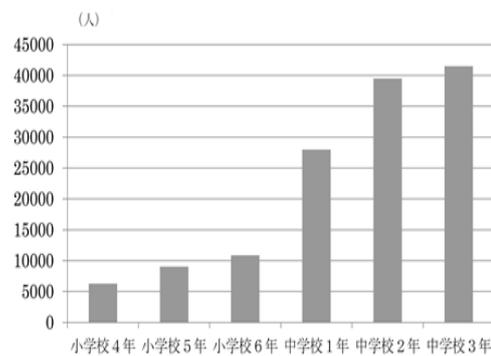


図1 全国学年別不登校児童生徒数

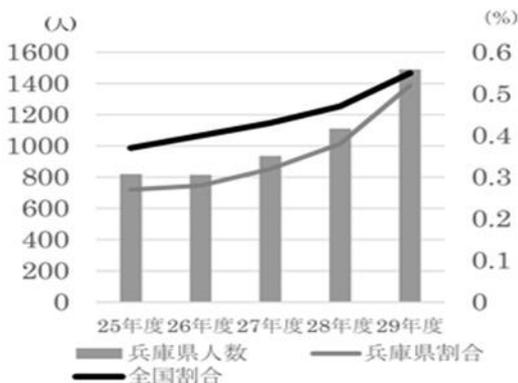


図2 兵庫県不登校児童数（公立小学校）

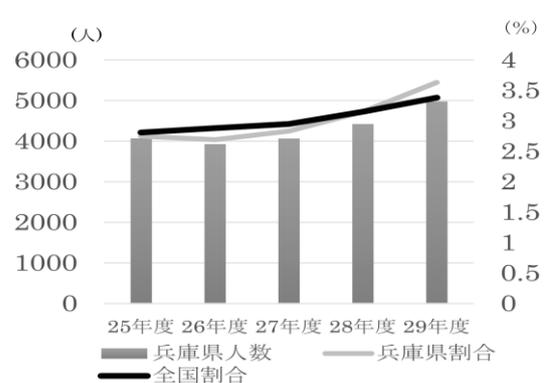


図3 兵庫県不登校生徒数（公立中学校）

いる（兵庫県教育委員会, 2018）。

一方、全国の不登校の児童生徒のうち、年度をまたいで不登校の状態が継続している数は翌年度には減少している（図4）。しかし、新規に不登校になる児童生徒数がそれを上回るため、結果として学年を追うごとに不登校の児童生徒数は増加する結果となっている。また、不登校に関する調査研究協力者会議によると「不登校状態が長引くほど、時間の経過とともに不登校要因は変化し、解決の困難度を増していく」（文科省, 2016）とされている。これらのことより、不登校の状態にある児童生徒への対応はもちろんであるが、同時に不登校を未然に防ぐ取組が必要だと思われる。

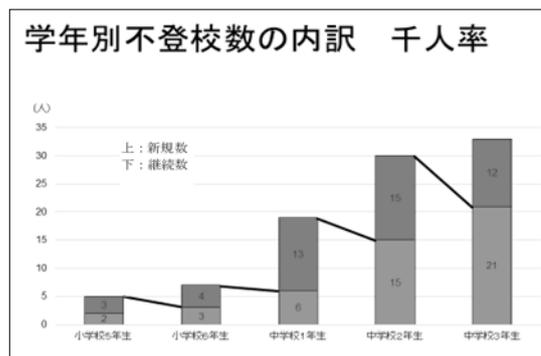


図4 学年別不登校数の内訳（千人率）

(2) 不登校の要因・背景

文科省（2018）によると、不登校の要因は、小・中学校ともに上位は共通しており、「不安の傾向がある」や「学校における人間関係」等が多い（図5）。1位の不安の内容としては、小学校、中学校とも「家庭に係る状況」、「友人関係」、「学業の不振」、「進級時の不適応」等が挙げられ、特に「友人関係」や「進級時の不適応」は不登校数が急増する中学校進学時の大きな不安要素になると考えられる。更に、小学校から中学校への移行は、「従来より構造化されている個人の世界が一時的に崩壊し、新たに再構造化することが求められている事態」（米澤・内藤・浅川・水俣, 1985）であり、児童期から青年前期への心身の発達の变化と異なる校種への移行とが重なることになり、児童にとっては「二重の意味で危機的である」（古川・小泉・浅川, 1992）と言われている。これらを鑑みると、中学校入学前後の時期は、不安の傾向がそれほど高くない児童生徒、あるいは学校における人間関係にあまりトラブルがないような児童でも環境が大きく変わり、人間関係づくりや学習面、生活面で不安を感じたり、悩んだりすることが多くなる危険性を持ちうると考えられる。移行期の適応に関するリスクを少しでも減らすことが、不登校数を減らすことにつながるのではないかと考える。



図5 不登校の要因

(3) 不登校の未然防止のための小小連携

不登校の未然防止については、小中連携はもとより、校区内の小小連携も含めて不登校やいじめという共通課題に取り組むことで、成果をあげている中学校区が現れている（国立教育政策研究所, 2014）。また、卒業を前にして、小学校生活のまとめとして、さほど仲のよくなかった仲間やあまり知らない仲間を改めて見直したり、今まで仲のよかった友人関係をより深めたりする活動を意図的に用意することが、移行期の対人関係での不安の緩和に有効である（草野・上地, 2002）との報告もある。これらから鑑みると、中学校入学前に同じ小学校の仲間だけでなく、中学校で一緒に生活することになるであろう他の小学校の児童同士がふれあう活動を小小連携等の取組で意図的に設けることで、中学校移行期の対人関係の不安緩和に繋がるのではないかと考えられる。

しかし、その一方で、不登校の児童生徒への支援を考えるに当たっては、「小中一貫教育等の取組など小学校と中学校の接続、連携の在り方について検討を進める必要がある」（第66回中央教育審議会初等中等教育分科会, 2014）との報告もあり、学校間連携の在り方については更なる検証が求められ

ている。そのような状況の下、学校間の連携として、中1ギャップを克服するための小中学校の交流を通しての連携は行われているが、小小連携を通しての実践はまだ少ないのが現状となっている。

また、近年、児童数減少により学校規模が縮小し、学校間の合併や、単学級や複式学級のある学校も増えてきている。これらの小規模校では、クラス替え等による新たな人間関係の構築が必要となる機会が少ないため、児童が中学校に進学する際の新たな出会いに戸惑いを持ちやすい状況を作ると考えられ、その結果、学校になじめずに、不登校になったり、生徒指導上問題になったりする児童生徒が増加することも予想される。

(4) 研究の目的

以上のことから、小規模校を対象として、小学生の持つ中学校生活への不安感を軽減して、小学校から中学校にスムーズな移行を促し、更に、中学校生活により適応しやすくするのに必要な力と態度を身につけられるような小小連携の在り方を考察するために、以下の2点を目的として研究を行う。

- ①中学生に向けたアンケートを実施し、中学校に向けての不安を少しでも減らせるように、効果的な小小連携の取組や、中学校進学に向けて身につけたい力を明らかにする（研究1）。
- ②①の結果を踏まえて、小小連携における取組の過程を整理し、それに基づいた活動プランを作成して実践し、その効果を検証するとともに、より効果的な小小連携の取組内容の方向性を示す（研究2）。

(5) 研究協力校の背景

本研究はA小学校、B小学校及びこの2校が校区となるC中学校に協力いただいた。A小学校は1学年1クラス、複式学級もある小規模校である。B小学校は、6年生は1クラス、それ以外の学年は1学年2クラス、1学年50名程度の学校である。C中学校は1学年2クラスで、1学年50～60名程度の学校である。また、2年後にこれらの3校が合併し小中一貫校になることが決定している。今後小中一貫校になり、より深い連携が求められる状況にあることから、A小学校、B小学校は、全学年を通じた小小連携の取組を平成29年度に始めた。今回、小小連携の取組に協力していただいた小学校6年生は、5年生時に自然学校の体験活動と人権教育講演会で小小連携を行っており、今年度は、小小連携による取組の2年目となる。

小規模校であるA小学校の児童は、入学時から単学級であり、お互いに分かり合った環境である反面、新たな人間関係を構築する機会は少ない中で過ごしてきた。中学校入学後、ほとんどの児童は新たな学校生活に慣れ、友達関係にも適応しているが、中には、比較的規模の大きなB小学校の児童とすぐになじむことが難しい生徒が見られることもあった。

2 研究1 中学生を対象とした中学校進学に対する意識調査

(1) 取組の概要

ア 調査目的

中学校進学への不安を減らすために効果的な小小連携の取組の内容及び小学校のうちに身につけたい力を明らかにする。

イ 調査対象

C中学校において、小学校6年生時に小小連携の取組経験のある1年生(58名)と、取組経験のない2年生(46名)を調査対象とした。

ウ 調査時期

平成30年5月～6月

エ 調査方法

(ア) アンケートの作成

㊦事前聞き取り調査

C中学校1年生(16名)を対象に、5～6名ずつ3日間に分けて面接を行った。質問内容は「中学校生活に慣れたか」、「中学校生活で楽しいこと」、「新しい友達の有無」、「小学校との違いで困ったこと」、「中学校生活の不安(学習、学校生活、友達関係)」、「6年時に小小連携をした感想」、「中学校に向けて6年生へのアドバイス」であった。

㊧C中学校1年生担任への聞き取り調査

C中学校1年生担任(2人)に事前聞き取り調査の結果を見ていただき、「C中学校1年生の入学後の現状」と「中学校入学時に身につけておくとよい力」についての聞き取り調査を行った。

㊨アンケートの作成

㊦㊧の結果をもとにしてアンケートを作成し、C中学校で実施した。

(イ) アンケートの内容

アンケートは【設問1】～【設問3】の3つの設問で構成した。【設問1】については、1、2年生で回答選択肢が異なっている。【設問2】、【設問3】については同じものとした。

㊩【設問1】中学校生活への適応(中学校生活にどれだけ慣れたか)

学習面9項目、生活面8項目で、1年生には「もう慣れた」、「だいたい慣れた」、「少し慣れた」、「まだ慣れない」、2年生には「すぐに慣れた」、「1学期のうちに慣れた」、「1年生の後半頃に慣れた」、「まだ慣れていない」のそれぞれ4件法で回答を求めた。仲間づくり(他小学校出身の生徒と仲良くなること)1項目では、1・2年生とも「仲良くなった」、「だいたい仲良くなった」、「少し仲良くなった」、「まだ仲良くなれていない」の4件法で回答を求めた。また、1年生には「中学校生活で困っていること」、2年生には「中学校に入学した頃に困っていたこと」についてそれぞれ自由記述で回答を求めた。

㊪【設問2】小小連携の有効性

小小連携で行うと役立つと思われる取組7項目を設定し「すごく役立つと思う」、「役立つと思う」、「少し役立つと思う」、「あまり役立たないと思う」、「わからない」の5件法で回答を求めた。また、「中学校入学に向けての不安を減らすために、小学校のときにしておけばよいと思うこと」について自由記述で回答を求めた。

㊫【設問3】中学校進学に向けて身につけたい力

学習面8項目、生活面7項目の中から、学習面、生活面それぞれにおいて大事だと思うもの上位3つに対して順位の記入を求めた。1・2・3位にそれぞれ3・2・1ポイントをつけ得点化した。また、「中学校入学に向けて、他に付けておけばよい力や習慣(小学校時にやっておくとよいこと)」について自由記述で回答を求めた。

オ 倫理的配慮

「みなさんの後輩が小学校から中学校進学するときに、『どのような取組があれば、中学校入学

に向けての不安を減らすことができるのか』、『中学校生活にスムーズに入っていくのに何が役立つのか』を知る」という目的を表文に記すとともに担任から教示するよう依頼した。また、回答は任意とし、アンケートが学校の成績と全く関係がないこと、それぞれの質問には正しい答えや間違った答えがないこと、答えてもらった個人情報、この目的以外に使用しないことを同様に教示した。得られた回答用紙は集計後速やかに返却または廃棄し個人情報保護に配慮した。

(2) 結果

ア 【設問1】 中学校生活への適応（中学校生活にどれだけ慣れたか）

(ア) C中学校1年生の結果

結果を図6に示した。学習面で、「まだ慣れない」、「少し慣れた」の回答が多かった項目は、「テスト（範囲、テストの数）27名（47%）」や「宿題・課題の量が増えたこと17名（29%）」、「ノートを取り方や学習の進むスピードが変わったこと14名（24%）」、「宿題・課題の提出の仕方が教科によって違うこと13名（22%）」、「勉強内容が増えたこと13名（22%）」であった。生活面では、「まだ慣れない」、「少し慣れた」の回答が多かった項目は「先輩、先生に敬語を使うこと9名（16%）」や「自分で考えて行動する機会が増えたこと8名（14%）」、「いろいろな校則があること8名（14%）」であった。仲間づくりの「他の小学校児童と仲良くなること」の項目では、2名以外は「仲良くなれた」、「だいたい仲良くなった」と回答していた。

「まだ慣れていない」、「少し慣れた」と回答した生徒が20%を超えた項目が、学習面では5項目に対して、生活面ではなかった。学習面の方が生活面よりも「まだ慣れていない」、「少し慣れた」と回答している生徒が比較的多かった。



図6 中学校生活への適応（C中学校1年生）

(イ) C中学校2年生の結果

結果を図7に示した。「まだ慣れていない」、「1年生の後半頃に慣れた」の回答が多かった項目は、学習面では「テスト（範囲、テストの数）19名（41%）」、「勉強内容が増えたこと10名（21%）」、「発表するときによく多くの生徒に注目されること9名（20%）」、「宿題・課題の量が増えたこと9名（20%）」であった。生活面では「部活動があること（朝や放課後）10名（21%）」、「先輩、先生にあいさつすること10名（21%）」、「自分で考えて行動する機会が増えたこと10名（21%）」、「1日の生活の仕方が変わったこと8名（17%）」であった。仲間づくりの「他の小学校児童と仲良くなること」の項目で「まだ仲良くなれていない」、「少し仲良くなった」と回答している生徒は7名（15%）であった。

(ウ) 自由記述の内容

自由記述に書かれていた主な内容をまとめて表1に示した。学習面では宿題・課題の量の増加等、生活面では休み時間の減少による時間の使い方や通学の仕方等、仲間づくりでは先輩との交流、初めて出会う人、他の小学校の子と仲良くなりにくかった等の記述が多かった。



図7 中学校生活への適応（C中学校2年生）

表1 中学校生活で困っていることに関する記述内容（C中学校1・2年生）

<p>(C中学校1年生の記述)</p> <p>【学習面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題の量が増えて、さらに課題が増えたので夜遅くまでかかってしまうこと。 ノートをできるだけ早くとること。 <p>【生活面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休み時間が短くて、体操服や制服に着替えるのが大変で困った。 給食の量が多い。 家までの道のりが遠くて、帰りの時間が遅くなること。 自分で考えて行動する。 <p>【仲間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩や同級生との交流が少ないため、名前が覚えられず、用事があるときはどんな人かが分からない。 <p>(C中学校2年生の記述)</p> <p>【学習面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題の量が多くなり、寝不足気味になったこと。 最初は課題がたくさんあって大変。すぐに慣れる人と慣れない人に分かれた。 <p>【生活面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 机が一つ一つ離れていること。 休み時間が少なくて時間が把握しづらかった。 部活動をして、さらに自転車で帰ると足が痛い。 <p>【仲間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩との距離感。 初めて出会う人や先輩に関わること。 他の小学校の子と仲良くなりにくかった。

イ 【設問2】 小小連携の有効性

(ア) C中学校1年生の結果

図8のように、小小連携の取組については、「すごく役立つ」、「役立つ」と回答している生徒の割合はどの項目も80%以上であった。特に、「グループで協力しないとできないような活動を行うこと」で、「すごく役立つ」、「役立つ」と回答している生徒が98%いた。

(イ) C中学校2年生の結果

図9のように、小小連携の取組で「すごく役立つ」、「役立つ」と回答した生徒の割合は全て80%以下であり、特に、「活動するときに話し合いをして、お互いの考えを発表をする」については60%以下であった。

(ウ) 自由記述の内容

自由記述に書かれていた主な内容をまとめて表2に示した。小小連携の取組を経験している1年生からは、A小学校とB小学校との交流の場や入学前に仲良くなれることを望む記述が多く見られた。経験していない2年生からは、たくさん友達をつくる等の記述は見られるものの、他小学校との交流に関する具体的な記述はあまり見られなかった。

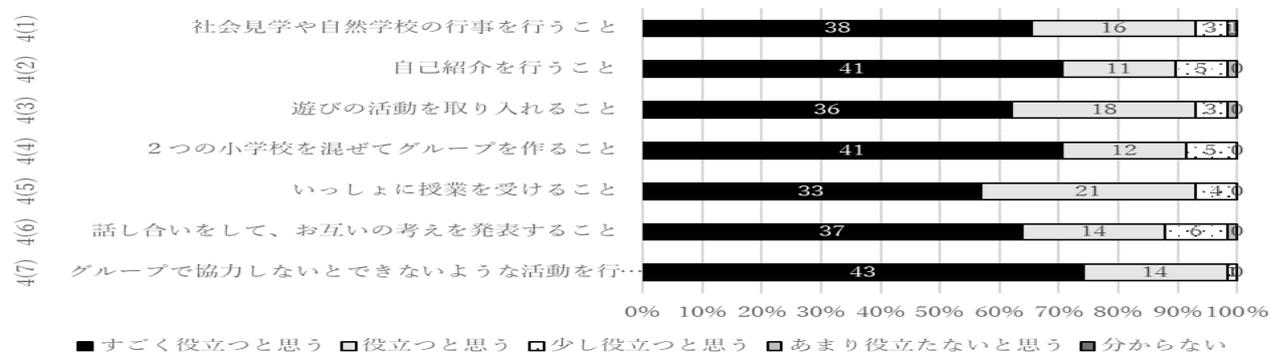


図8 小小連携の有効性 (C中学校1年生)

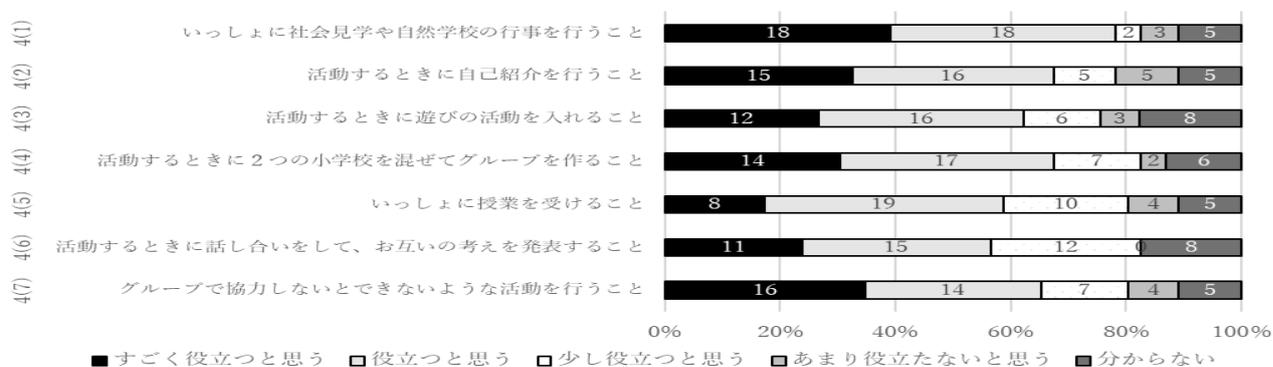


図9 小小連携の有効性 (C中学校2年生)

表2 小小連携の有効性に関する記述内容 (C中学校1・2年生)

<p>(C中学校1年生の記述)</p> <p>(小小連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとA小とB小との交流を増やしたらいい。 ・小学校のうちに他の学校の人と仲良くなれるようなことがあったら良かった。 ・A小学校とB小学校で小小連携をやったときにグループに話しやすい子がいるとよい。 ・一人でもいいので、他校の生徒と仲良くなっておいた方がよい。 ・気軽に誰とでも交流できるくせをつけておく。 ・他の小学校の子と話すのは中学校に入って最初難しいと思うから、他の学校の子と話しておけば良い。 <p>(C中学校2年生の記述)</p> <p>(小小連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん友達をつくること。 ・先輩とのふれあい。 ・いっぱい話すこと。
--

ウ 【設問3】 中学校進学に向けて身につけたい力

(ア) C中学校1年生の結果(学習面)

図10のように、「1：自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力(66ポイント)」、「3：全体やグループの中で自分の考えを話す力(59ポイント)」、「2：学習の仕方(授業を受ける態度、ノートの取り方)(58ポイント)」、「6：学習を最後までやり遂げる力(50ポイント)」を挙げている生徒が多かった。

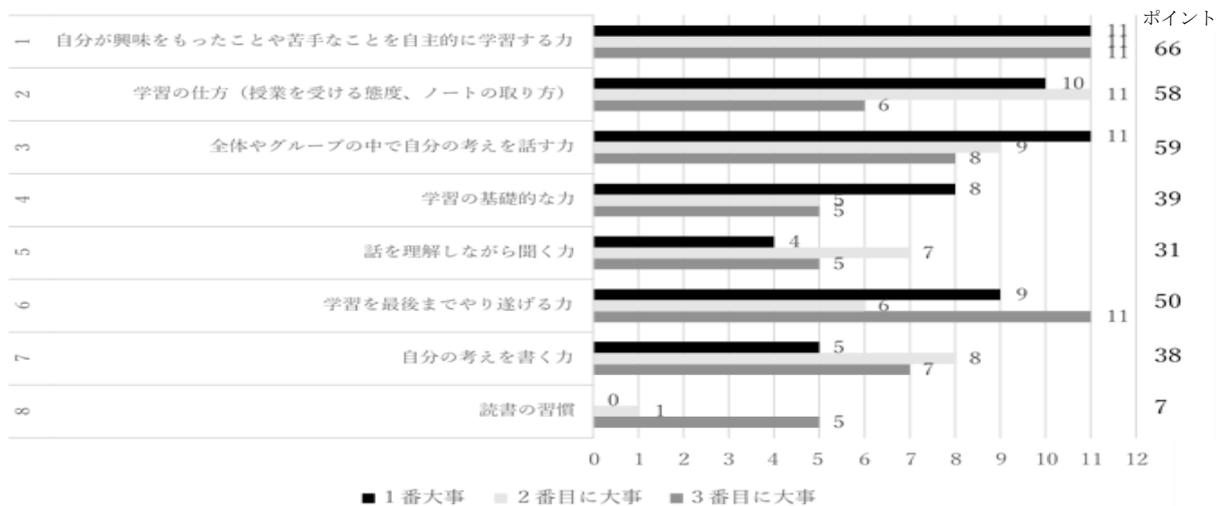
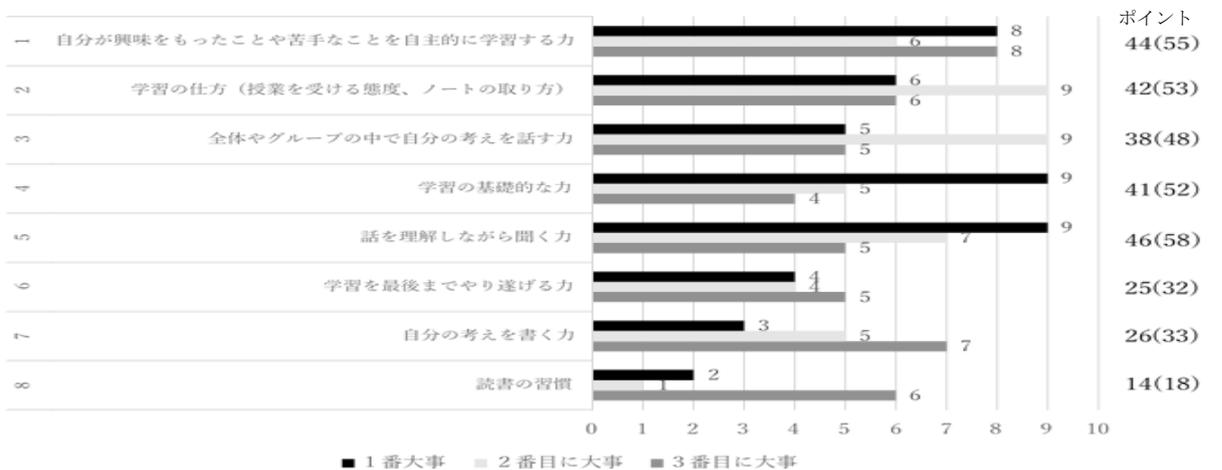


図10 中学校進学に向けて身につけたい力(学習面)(C中学校1年生)

(イ) C中学校2年生の結果(学習面)

図11のように、「5：話を理解しながら聞く力(46ポイント)」、「1：自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力(44ポイント)」、「2：学習の仕方(授業を受ける態度、ノートの取り方)(42ポイント)」、「4：学習の基礎的な力(41ポイント)」、「3：全体やグループの中で自分の考えを話す力(38ポイント)」が多かった。



*ポイントの()は、C中学校1年生(58名)とC中学校2年生(46名)の人数が異なるため、人数比を合わせるために(58/46)したもので示している

図11 中学校進学に向けて身につけたい力(学習面)(C中学校2年生)

(ウ) C中学校1・2年生の合計(学習面)

順位をポイント化し、合計したものを表3に示した。「1：自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力(121ポイント)」、「2：学習の仕方(授業を受ける態度、ノートの取り方)(111ポイント)」、「3：全体やグループの中で自分の考えを話す力(107ポイント)」の3つのポイントが特に高かった。

表3 中学校進学に向けて身につけたい力（学習面）

身につけたい力	ポイント
(1) 自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力	1 2 1
(2) 学習の仕方（授業を受ける態度，ノート）	1 1 1
(3) 全体やグループの中で自分の考えを話す力	1 0 7
(4) 学習の基礎的な力	9 1
(5) 話を理解しながら聞く力	8 9
(6) 学習を最後までやり遂げる力	8 2
(7) 自分の考えを書く力	7 1
(8) 読書の習慣	2 5

* C中学校1年生のポイントとC中学校2年生の人数比に合わせたポイントを合計したものを示している

(エ) C中学校1年生の結果（生活面）

図12のように、「2：時間を守る習慣(73ポイント)」、「3：正しい言葉づかい（敬語）(69ポイント)」、「1：だれとでも協力できること(62ポイント)」、「4：自分の予定を立てて計画的に行動する習慣(61ポイント)」を掲げている生徒が多かった。

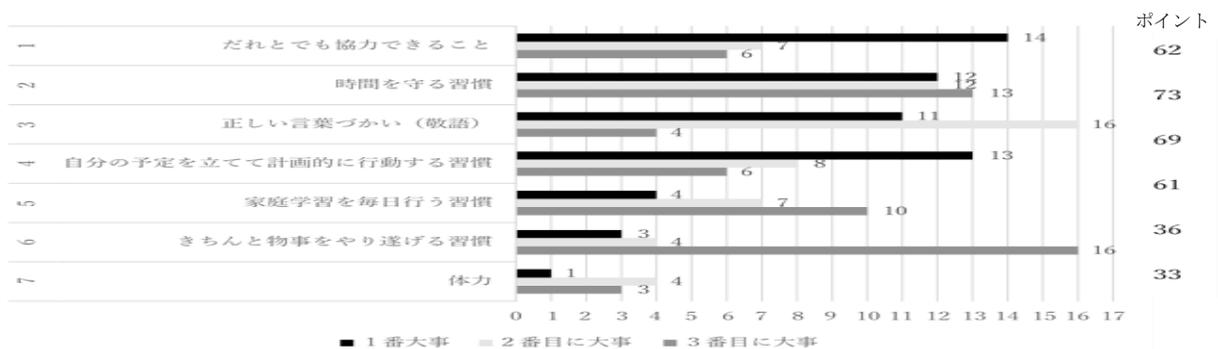
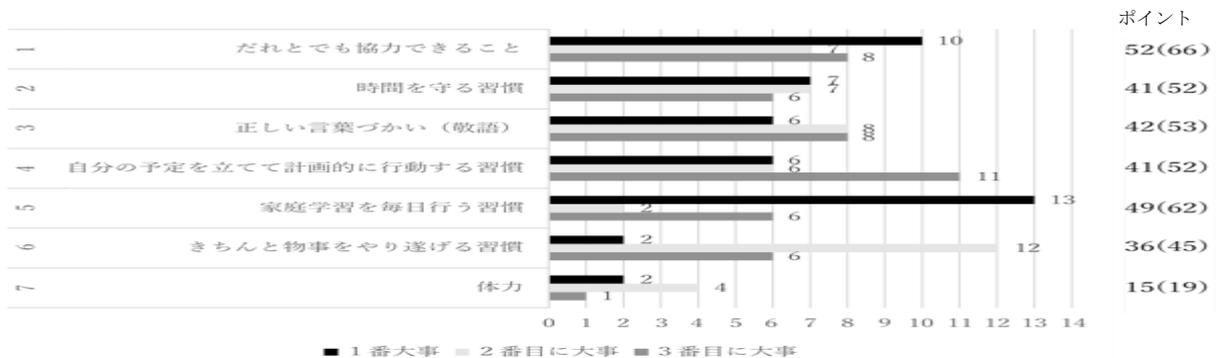


図12 中学校進学に向けて身につけたい力（生活面）（C中学校1年生）

(オ) C中学校2年生の結果（生活面）

図13のように、「1：だれとでも協力できること(52ポイント)」、「5：家庭学習を毎日行う習慣(49ポイント)」、「3：正しい言葉づかい（敬語）(42ポイント)」、「2：時間を守る習慣(41ポイント)」、「4：自分の予定を立てて計画的に行動する習慣(41ポイント)」が高かった。



*ポイントの（ ）は、C中学校1年生（58名）とC中学校2年生（46名）の人数が異なるため、人数比を合わせるために（58/46）したもので示している

図13 中学校進学に向けて身につけたい力（生活面）（C中学校2年生）

(カ) C中学校1・2年生の合計（生活面）

順位をポイント化し、合計したものを表4に示した。「1：だれとでも協力できること（128ポイント）」、「2：時間を守る習慣（125ポイント）」、「3：正しい言葉づかい（敬語）（122ポイント）」、「4：自分の予定を立てて計画的に行動する習慣（113ポイント）」の4つが特に高かった。

表4 中学校進学に向けて身につけたい力（生活面）

身につけたい力	ポイント
(1) だれとでも協力できること	128
(2) 時間を守る習慣	125
(3) 正しい言葉づかい（敬語）	122
(4) 自分の予定を立てて計画的に行動する習慣	113
(5) 家庭学習を毎日行う習慣	98
(6) きちんと物事をやり遂げる習慣	78
(7) 体力	33

*C中学校1年生のポイントとC中学校2年生の人数比に合わせたポイントを合計したものを示している

(キ) 自由記述の内容（学習面、生活面）

自由記述に書かれていた主な内容をまとめて表5に示した。学習面については、1年生では、「学習習慣を身につけること」、「中学校の学習を意識して学習すること」、「発表の仕方を身につけること」に関する記述が見られたが、2年生では「学習習慣を身につけること」のみであった。生活面については、1・2年生ともに「生活習慣を身につけること」に関する記述が見られた。仲間づくりについては、1年生では、あいさつや他校の出身者と話をすること、2年生ではより深い関わりに関する記述が見られた。

表5 中学校進学に向けて身につけたい力に関する記述内容

<p>中学校進学に向けて身につけたい力（C中学校1，2年生の記述）</p> <p>（C中学校1年生）</p> <p>【学習面】</p> <p>学習習慣を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題以外にも自主的に勉強する力を身につける。 ・小学校6年間の総復習。 <p>中学校の学習を意識して学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習や復習をする習慣を身につける。 ・大きい範囲のところを学習することや少し長い時間勉強することに慣れておく。 <p>発表の仕方を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をみんなに言えるようになる。小学校の時から敬語で話す。 <p>【生活面】</p> <p>生活習慣を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きをしたり、しっかり生活リズムを整えたりすること。 ・敬語を使えるようになる。 <p>【仲間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段からあいさつをすると、先輩に対しても正しい行動ができる。 ・しゃべる力（他の学校の子としゃべれるように）。 <p>（C中学校2年生）</p> <p>【学習面】</p> <p>学習習慣を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強の仕方を身につける。（先生の話をしっかり聞いて勉強する。） ・小学校の勉強の内容を理解しておくこと。 <p>【生活面】</p> <p>生活習慣を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体をいっぱい動かす。 ・早寝早起きをする。時計を見て動く習慣。 ・敬語を使うこと。 <p>【仲間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に人と会話したり学習したりする。 ・友達を大切にすること。 ・相手のことを思って言動すること。空気を読むこと、人のことを考える力。
--

(3) 考察

ア 中学校進学前後における不安について

【設問1】の結果を見てみると、学習面では、総じて両学年でほぼ共通した結果を示している。「テスト内容の変化」、「宿題・課題の変化や増加」、「学習の内容・方法の変化」等になかなか慣れないと感じており、学習内容の質・量・方法が変わることに対して不安を感じる生徒が多いのではないかと考えられる。生活面では、学年によって多少の差異はあるものの「きまりや習慣」、「生活の仕方」、「自立的な行動」等になかなか慣れないと感じており、社会性や人間関係の広がりに対して不安を感じる生徒が多いのではないかと考えられる。一方、学習面・生活面における不安については、小小連携の取組を経験している1年生と経験していない2年生との差異はあまり見られなかったが、学習面の方が生活面の不安よりも比較的高かった。仲間づくりについては、1年生よりも2年生の方が「まだ仲良くなれていない」と答えている生徒が比較的多かった。対象の生徒が違うので一概には言えないが、小学校6年生時の小小連携の取組の経験をした中学校1年生の方が中学校入学後の円滑な仲間づくりができてきている結果となっている。

イ 小小連携の取組内容について

【設問2】の結果において、1年生と2年生を比較すると、6年生時に小小連携の取組の経験のある1年生の方が、経験のない2年生よりも小小連携の有効性を感じている生徒が多かった。1年生は、小小連携の取組に対して88%~98%の生徒が小小連携は中学校入学時に「すごく役立つと思う」、「役立つと思う」と回答している。特に「A・B小学校でいっしょに活動するときグループで協力しないとできないような活動を行うこと」については、98%の生徒が有効であると答えている。小小連携の取組を経験していない2年生は、小小連携のそれぞれの取組が「すごく役立つと思う」「役立つと思う」と回答している生徒は57%~78%であり総じて1年生よりも低かった。しかし、逆に言えば小小連携の取組を行っていないのに半数以上の生徒が小小連携は役に立つと回答しているということでもあり、未経験の生徒でも半数以上の生徒は中学校入学前の交流は役に立つであろうと考えていることがわかった。また、小小連携を行っていない2年生の中には、【設問1】で「他の小学校出身の人とまだ仲良くなれていない」あるいは「1年生の後半頃に仲良くなった」と答えた生徒が7人(16%)いたが、そのうちの4人(9%)は「小小連携の取組があればよかった」と答えており、小小連携による取組が仲間づくりに効果的ではないかと考えている様子が窺える。

ウ 中学校進学に向けて身につけたい力について

【設問3】の結果から、中学校進学に向けて身につけたい力として、学習面については、1・2年生とも「1：自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力」、「2：学習の仕方(授業を受ける態度、ノート)」、「3：全体やグループの中で自分の考えを話す力」を掲げている生徒が多く、自由記述にもほぼ同様の内容が多く見られた。これらの結果より、小学校段階で「興味をもったことや苦手なことを自主的に勉強していく機会を増やす」、「学習規律の定着を推進する」、「表現力を向上する取組を行う」ことは中学校進学に向けてより適応感を高めることにつながると期待される。一方、生活面については、1、2年生とも「1：だれとでも協力できること」、「2：時間を守る習慣」、「3：正しい言葉づかい(敬語)」、「4：自分の予定を立てて計画的に行動する習慣」を掲げている生徒が多く、自由記述にもほぼ同様の内容が多く見られた。小学校段階でこれらの習慣を身につけておくことが中学校生活に役立つと考えている生徒が多いことがわかる。

(4) まとめ

以上の結果から、中学校入学前後に「学習内容の質・量・方法が変わること」や「社会性や人間関係の広がり」に対する不安を抱く生徒が多いということがわかった。その対策として小小連携による取組を行うことは効果的だと感じている生徒が多いということが示され、更に中学校進学に向けて「自主的に学習する力」、「学習の仕方を身につける」、「自分の考えを話す力」という学習面、「正しい言葉づかい」、「誰とでも協力すること」、「時間を考えながら、自分の予定を立てて行動すること」という生活面の両面の力を身につけておくこととよいと感じている生徒が多いとわかった。

事前の聞き取り調査において、生徒からは「中学校に進学して他の小学校の児童と仲良くなれるか不安」、「一緒にやれるかどうか不安」という声が聞かれた。一方、自由記述からは中学校進学時の不安を減らすための手段として、他校の児童と小学校時から一緒に活動することを増やしたり、他校の児童と仲良くなったりする機会が増えたらよいと考えている生徒が見られた。これらを鑑みると、中学校進学前に、他の児童（他校も含む）と「仲良くなる」、「一緒にやれる」という感覚をもてるようにすることは有用であり、それをねらいとした小小連携の取組を実施することが中学における学校適応に有効ではないかと考えられる。しかしながら、生徒からの聞き取り調査の中には、「グループごとの交流の方が仲良くなれる」、「顔を見るだけでなく、グループ活動で意見を発表した方が仲良くなれる」、「人数が多い中での全員の前での発表は無理がある」、「自己紹介なしの感想交流はあまり意味がない」等の意見が聞かれ、単に2小合同で活動するだけでは効果がなく、そこに仲間づくりをねらいとした仕掛けを施すことで有効性が高まると思われる。これらの結果より、表6に示した3つを小小連携時の活動の指針とすれば、他校の児童との仲間づくりにつながり、中学校進学に向けての不安軽減につながる活動にすることができると考える。

また、「中学校進学に向けて身につけたい力」については、中学校でのアンケートの結果を討議資料としてA・B小学校の小小連携担当の教員や小学校6年時の担任らと協議した。その結果、概ねアンケート結果は支持され、学習面・生活面ともに、アンケート結果に示されていた表7のそれぞれ3項目の力を育むことをねらいとした取組を、小学校で積極的に行っていくことが必要ではないかという結論を得ることができた。

以上の結果をもとにした取組を、研究2としてA小学校・B小学校の6年生で実践し、その効果を検証することとした。

表6 小小連携の活動の指針

<p>仲間づくり (小小連携を通して)</p> <p>「お互いによく知り合う場を設ける」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動するときに自己紹介を行うこと <p>「混合グループでの活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動するときに2つの小学校を混ぜてグループをつくること <p>「協力しないとできない活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動するときにグループで協力しないとできないような活動を行うこと

表7 学習面・生活面で身につけたい力

<p>学習面で身につけたい力</p> <p>A) 自主的に学習する力</p> <p>B) 学習の仕方を身につける</p> <p>C) 全体やグループで自分の考えを話す力</p>	<p>生活面で身につけたい力</p> <p>D) 正しい言葉づかい</p> <p>E) だれとでも協力すること</p> <p>F) 時間を考えながら、自分の予定を立てて、計画的に行動すること</p>
---	--

3 研究2 中学校進学時の不安を減少させることをねらいとした取組の実践

(1) 研究の目的

研究1において、中学生に向けたアンケートを実施し、中学校進学前後における不安を少しでも減らすためには小小連携が有効であると中学生が認識していること、及びその具体的な取組内容の指針と中学校進学に向けて身につけたい力を明らかにした。そこで、研究2では、これらの結果をもとに構成した取組を具体化して実践し、その有効性の検証を行うことを目的とする。

(2) 実践の方法

研究1で得られた結果をもとに、「A：小小連携による取組」、「B：中学校進学に向けて身につけたい力を身につける取組」を構成し実施した。また、これらを充実させるために「C：職員間の連携の充実を図る取組」についても併せて実施した（図14）。

ア 「A：小小連携による取組」について
A小学校・B小学校合同で実施する行事（【実践1】人権教育講演会，【実践2】修学旅行及び音楽会や学習発表会でのビデオレターでの交流，【実践3】平和学習）において、研究1で得られた3つの指針をもとにして構成した活動を盛り込んで活動内容を計画した。なお，【実践1】と

【実践3】はこれまでも両校合同実施として企画されていた既存の行事を活用しており，企画・運営等に係る学校の負担ができるだけ少なくなるように配慮した。

イ 「B：中学校進学に向けて身につけたい力を身につける取組」について

中学校でのアンケートで得られた結果を用いて，両小学校の児童それぞれに1コマの「身につけたい力の授業」等の取組を実施した。また，「A：小小連携による取組」の活動内容にも表7のA)～D)にある学習面・生活面で身につけたい力を育むための工夫を施した。

ウ 「C：職員間の連携の充実を図る取組」について

上記の取組をより充実させるために，A・B小学校及びC中学校の3校合同による教員研修会を実施した。また，市教委の協力を得ながら3校の担当者による打ち合わせを密に行うなど，教員同士の連携を深めることにも配慮した。

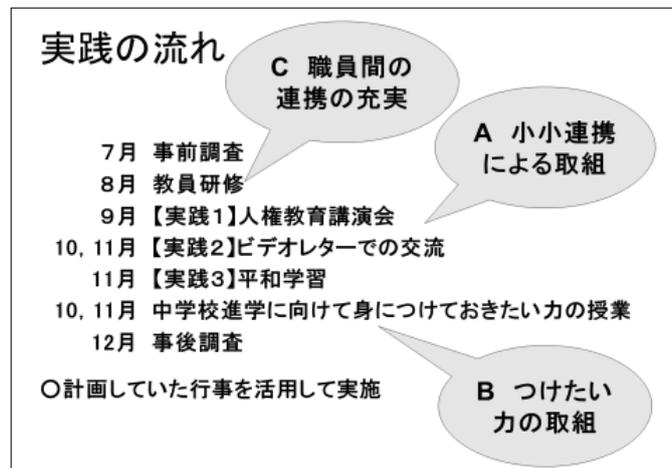


図14 実践の流れ

(3) 実践の効果検証の方法

ア 調査対象

この取組に参加したA小学校6年生児童（14名），B小学校6年生児童（29名）を対象とした。

イ 調査期間

平成30年7月～12月

ウ 調査方法

(ア) アンケートの作成

研究1で使用した中学校でのアンケートをもとに，【設問1】中学校進学に向けての不安アンケート（学習面，生活面，仲間づくり），【設問2】中学校進学に向けて身につけたい力アンケート（学習面，生活面），【設問3】仲間づくりアンケート，【設問4】小小連携の取組アンケートの4つの設問を作成した。【設問1～3】は取組の事前と事後に，【設問4】は取組の事後に実施した。

(イ) アンケートの内容

㊦ 【設問1】中学校進学に向けての不安アンケート（学習面，生活面，仲間づくり）

中学校進学に向けての不安（学習面9項目，生活面8項目，仲間づくり4項目）を「不安ではない」，「あまり不安ではない」，「少し不安だ」，「不安だ」の4件法で回答を求めた。ま

た、「中学校進学に向けて、不安に思っていること」について自由記述で回答を求めた。

④【設問2】中学校進学に向けて身につけたい力アンケート（学習面、生活面）

研究1で得られた中学校進学に向けて身につけたい力の学習面・生活面それぞれ3つについて、それぞれ4項目ずつ質問を設け、「とてもよく当てはまる」、「少し当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「ぜんぜん当てはまらない」の4件法で回答を求めた。

⑤【設問3】仲間づくりアンケート

（他の小学校の児童とどれだけ仲良くなったか）

他校の児童と仲良くなっていく過程を9段階の状況に分け、それぞれの状況に当てはまる児童数について0人、1～3人、4～5人、6～9人、10人以上の5件法で回答を求めた。（他校との活動の期待度）

「A小学校（B小学校）の人といっしょに次の活動をするのが楽しみだ」、「A小学校（B小学校）の人と中学校で会うのが楽しみだ」の2つ質問について「かなりそう思う」、「そう思う」、「少しそう思う」、「ぜんぜんそう思わない」の4件法で回答を求めた。

⑥【設問4】小小連携の取組アンケート（事後調査のみ）

今回の実践で行った4つの小小連携による取組（①人権教育講演会、②修学旅行のビデオレター、③音楽会や学習発表会のビデオレター、④平和学習）が相手校の児童の名前を覚えたり、交わったり、仲良くなったりするのにどれぐらい役に立つのかについて、「役に立った」、「少し役に立った」、「どちらでもない」、「あまり役に立たなかった」、「役に立たなかった」の5件法で回答を求めた。また、「小小連携で交流して、よかったことや感じたこと」について自由記述で回答を求めた。

エ 倫理的配慮

「みなさんの学校生活をよりよくするために生かすこと」、「中学校進学に向けたこれからの取組を考えること」という目的を表文に記すとともに担任から教示するよう依頼した。また、回答は任意とし、アンケートが学校の成績と全く関係がないこと、それぞれの質問には正しい答えや間違った答えがないこと、答えてもらった個人情報、この目的以外に使用しないことを同様に教示した。得られた回答用紙は集計後速やかに返却または廃棄し個人情報保護に配慮した。

(4) 「A：小小連携による取組」の実践

ア 【実践1】人権教育講演会における小小連携の取組

音楽家である講師の講演を聞いた後、講師が作曲した合唱曲をA小学校、B小学校で一緒に歌う活動を行った。その後、今回の小小連携の取組として、A・B小学校の児童が交わったグループを作り、自己紹介、人権教育講演会の感想交流を行った（表8）。

表8 人権教育講演会における小小連携の取組

＜本取組のねらい＞		○相手校の児童の名前を覚える ○積極的に相手校の児童と交わろうとする			
活動名	実施形態	実施方法	ねらいに向かう工夫	関連する「つきたい力」とその工夫	
1	合唱	全体	講演会の講師が作曲した合唱曲を2校合同で合唱。		B)学習の仕方を身につける 感想交流の際に、発表の仕方や聞き方を提示した。
2	自己紹介	混合グループ	「となりのとなり」によって「好きな食べ物」を添えて自己紹介する。	好きな食べ物と一緒に自己紹介すること、「となりのとなり」で何度も復唱すること、ゲーム感覚で楽しみながらすることで名前と顔を覚えやすくした。	C)全体やグループで自分の考えを話す力 感想交流の際には「となりのとなり」を活用し、他者の考えと合わせて考えを話すようにした。
3	感想交流	混合グループ	「となりのとなり」によって名前とともに感想を交流する。	名前とともに感想を言うことで、名前を覚えやすくし、自分の感想を合わせて発表することで、自分の考えを話す機会とした。困っている子にアドバイスし合うことで、相手校の児童と積極的に交わらせるようにした。	D)正しい言葉遣い 感想交流の際に、発表の仕方や聞き方を提示した。 E)だれとでも協力すること 「となりのとなり」でお互いヒントを出し合わせることで協力を促した。 F)時間を考えながら、自分の予定を立てて計画的に行動すること 流れを提示し、活動時には時間設定をして、グループで協力して活動を進められるようにした。

(児童の感想)

歌の交流について

・A小学校の子は、一緒に歌えてよかったと言っていた。私も一緒に歌えてよかった。

名前に関する記述

・A小学校の女子はだいたい覚えただけ、男子があまり覚えられていなかったけど、2人新しく覚えることができた。
・これまで交流したときは、名前が分からない人がほとんどで話すことも全くしてなかったので、もう少し話をしたり、名前を覚えたりしたいと思っていた。でも、今回は同じグループになった人たちの名前は覚えられた。特技や好きな食べ物も覚えられたので、この調子で全員の名前を覚えたい。

交流に関する記述

・交流したときは、最初は緊張したけれど、どんどんやっていると緊張もほぐれ、仲良くなれたと思った。
・来年、A小学校のみんなと中学校で一緒にいるから、この交流を大切にしたいなと思った。

考えの違いや新たな考えの気づきに関する記述

・B小学校の人がどんな感じが、雰囲気が分かってよかった。
・まだあまり会話をしたことのない子と関わって、また新しい意見を聞いてよかった。

話せなかった子

・ちゃんと話せなかったので、もっとちゃんと話したい。

イ 【実践2】 修学旅行及び音楽会や学習発表会でのビデオレターでの交流

5月に修学旅行に行ったA小学校の児童から、10月に同じ場所へ修学旅行に行くB小学校の児童に向けて「修学旅行おすすめポイント」を自己紹介とともに紹介する内容のビデオレターを作成し、B小学校に送った。修学旅行終了後、B小学校からA小学校に向けて、修学旅行での体験をもとにした劇を班ごとに発表するとともに、班ごとに自己紹介とお礼のメッセージを収録したビデオレターを制作してA小学校に送った。メッセージは学級通信に掲載してもらい、保護者にも取組の内容を発信した。11月には、A小学校は学習発表会での平和学習の発表と合唱を、B小学校は音楽会での合奏、合唱、リコーダー奏の発表の様子をビデオレターにして交換した。双方向でメッセージの交換をすることで、仲間意識や相手校に取組を発信したいという思いをもたせるように促した。また、発表の見どころを伝え合うことで、相手校のことをよく知れるよう工夫した（表9）。

表9 ビデオレターによる小小連携の取組

＜本取組のねらい＞		○ビデオレターの交流を行うことで仲間意識を持つ ○ビデオレターの内容から相手校のことを知る ○相手校の児童に、自分たちの考えを発信したいという思いを持つ			
	活動名	実施形態	実施方法	ねらいに向かう工夫	関連する「つきたい力」とその工夫
1	修学旅行おすすめポイントのビデオレター	A小学校	1学期に修学旅行に行ったA小学校から、これから修学旅行に行くB小学校に修学旅行おすすめポイントのビデオレターを送った。	A小学校の児童が一人ずつ修学旅行のおすすめポイントに今後の小小連携に向けてのメッセージを添えた。発表している児童の名前をテロップで流すことで、人権教育講演会でグループ交流した児童の名前と顔を一致させ、友好関係を深めることをねらいとした。	(間接的ではあるが) B) 学習の仕方を身につける 他校の発表を聞き、新たな学習内容や表現の方法を知る。 C) 全体やグループで自分の考えを話す力 ビデオレターでの発表を通して、相手に伝わるように話し方に気をつけて発表する。
2	修学旅行お礼のビデオレター	B小学校	修学旅行を終えて、B小学校からA小学校にお礼のビデオレターを送った。	修学旅行の劇を班ごとに発表するとともに、班ごとに自己紹介とお礼のメッセージを伝えた。その際に、劇の役割と顔と名前を結びつけて覚えてもらえるように工夫した。また、発表時には、名前のテロップを流した。クラス全体でもA小学校に感謝の気持ちや小小連携に向けての思い、中学校で一緒になる思いも併せて伝えた。	D) 正しい言葉づかい 発表の際には、相手に伝わるように正しい言葉づかいで発表する。 E) だれとでも協力すること ビデオレターの発表に取り組む際には、仲間と協力して発表に取り組む。
3	学習発表会のビデオレター	A小学校	学習発表会での平和学習の発表と合唱の様子にメッセージを添えてビデオレターを送った。	ビデオレターでは、学習発表会の平和学習の発表を行うと共に、次の小小連携の取組（平和学習）に向けてメッセージや発表の見どころを伝えた。	F) 時間を考えながら、自分の予定を立てて計画的に行動すること 活動時には、時間設定をしてグループで協力して活動を進められるようにした。
4	音楽会のビデオレター	B小学校	音楽会での合奏、合唱、リコーダー奏の発表の様子にメッセージを添えてビデオレターを送った。	ビデオレターでは、音楽会の演奏に加え、メッセージや発表の見どころを伝えることで仲間づくりが深まったり、相手校のことを知れたりできるように工夫した。	
(6年生担任から) 児童は相手校からのビデオレターが届くのを心待ちにしているという話を聞いた。更に、相手校からのメッセージが、小小連携への期待を高めるとともに、私たちが頑張りたいという学習の励みになったという話も聞いた。実際に会って交流し、親交を深めるというのが理想ではあるが、交通手段の関係や日程の関係でできないこともある。このような間接的な関わりも有効であることが分かった。					

ウ 【実践3】 平和学習における小小連携の取組

語り部から戦争体験を聞くという平和学習において、2校合同で語り部の講話を聞いた。その後、今回の小小連携の取組として、平和学習で感じたことを2つの小学校の児童が交わったグループを作り、自己紹介も含めた感想交流を行った（表10）。交流では、出された意見等について話し合いながら仲間分けを行うKJ法や、効率的にグループ間の発表交流が行えるワールドカフェの手法を用いて、共同作業をさせることでできるだけ多くの児童と交流できるように工夫した。

表 10 平和学習における小小連携の取組

＜本取組のねらい＞		○相手校との協働作業や意見の交流に積極的に参加する ○交流を通して、他者の考えを知る			
	活動名	実施形態	実施方法	ねらいに向かう工夫	関連する「つきたい力」とその工夫
1	平和学習	全体	戦争体験の語り部に来ていただき、平和学習を一緒に行う。		A) 自主的に学習する力 取組で平和学習の意見交流を行うことを伝え、事前の調べ学習や自主学習とつなげた。平和学習で興味を持ったことを自主学習や平和学習のまとめにつなげた。
2	感想交流	混合グループ	自己紹介	平和学習の感想を含めた自己紹介を行い、考えと顔、名前が一致するようにした。	B) 学習の仕方を身につける KJ法やワールドカフェの手法を用いた交流の方法を提示し、新たな交流の手段とした。発表の仕方や司会の仕方を提示し、学習の仕方の習得を図った。 C) 全体やグループの中で自分の考えを話す力 KJ法やワールドカフェの手法を使った交流の仕方を用いて、自分の考えを発表する場を設定した。また、グループ活動の話し合いで、意見の交流を行った。
3	KJ法を使った協働作業	混合グループ	KJ法を使い、自分の考えを書いた付箋を模造紙に並べ、班ごとに話し合いながら、同じ意見や似ている意見を集め、小見出しをつけた。	出された意見の仲間分けを行うKJ法を使って、2小混合グループで小見出しをつけるなどの協働作業を行わせ、必然的に交流する場を設定した。	D) 正しい言葉づかい 発表の仕方を提示し、場に応じた発表や話し方を意識して行った。 E) だれとでも協力すること KJ法を使って、話し合いをしながら考えをまとめていく協働作業を行った。ワールドカフェの手法を用いて、班で2つの小学校の児童が仲間意識をもてるようにした。 F) 時間を考えながら、自分の予定を立てて計画的に行動すること 活動の流れを提示した。活動の際には時間設定し、その時間内にグループで協力して、活動が進められるようにした。
4	ワールドカフェを用いた感想交流	混合グループ	ワールドカフェの手法を使い、班から出た意見を他の班に伝える活動を行った。他の班と交流して分かったことを、また自分の班に戻って発表し、考えを共有する活動を行った。	短時間に効率よく発表が行えるワールドカフェの手法を用いて、必然的に全員が発表する場を設けて、思いや考えを共有させ、仲間意識をもたせるようにした。活動の際には、司会の仕方やワールドカフェの進め方、発表の仕方を児童に示し、学習の仕方を身につけられるような場を設定した。	
<p>【交流の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の活動で、B小学校の子と仲良くなることができたのでよかったです。意見を書いて仲間分けをするときには、みんなで話し合っていることができてよかったです。また、交流するときには、ちがう子とも話したりして仲良くなりたいと思いました。 A小の子と感想を交流することができたのでよかったです。ワールドカフェでは、他の班の子と一っしょに話すことができてよかったです。みんなで話し合いをすることは、とても楽しかったです。 <p>【他者の考えを知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の活動で名前が覚えられてよかったし、みんながどんなことを思っているか分かってよかったです。 <p>【小小連携による自分への気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> A小の子と一っしょに交流ができたのでよかったです。自分の意見を普段あまり言わないけどがんばりました。あまりしゃべったことのないA小の子ともしゃべれてよかったです。前の小小連携のときよりも積極的に話すことができました。 <p>【今後の小小連携に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校であるA小と交流したことで、A小のみんなの性格やいいところが知れたと思います。たくさん話せたと思うし、一っしょに笑うこともできました。次は、ちがう班のA小のみんなと話し、名前を覚えられるようにがんばりたいです。次の学習は、B小学校であるので、いろいろ分からないこと 					

もあると思うので、がんばってみんなにB小のいいところも話したいです。とても楽しかったです。

【今後の活動、中学校に向けての期待】

- ・ B小との中学での交流がすごく楽しみになりました。
- ・ A小の子もぼくも中学校で仲良くできると思いました。理由はみんなでケンカせずに話し合えたり、気が合う子がたくさんいたからです。中学校が楽しみです。

【課題】

- ・ (班が女の子ばかりで)しゃべりにくかったけど、ちゃんと話は聞けてよかったです。
- ・ あまりしゃべれなかったけど、やさしくしてくれたので、うれしかったです。

(5) 「B：中学校進学に向けてつきたい力を身につける取組」における実践

研究1でのアンケートや聞き取り調査から得られた結果をわかりやすくまとめた資料を作成し、A小学校、B小学校それぞれの6年生の児童に提示して、「小学校の間にどんな力をつけておくと中学校入学時に役立つか」について中学校の先輩からの言葉として伝えた。次に、中学校進学に向けて今の自分に必要だと思う力、つきたいと思う力を各自で考えさせワークシートに書かせた。その後、ワークシートに書かれた内容を模造紙にまとめ、教室に掲示した。そうすることで、中学校進学に向けて取り組むことの意識化を促進するとともに、他の児童の身につけたい力を参考にしたり、更には中学校進学に向けて身につけたい力を探れたりできるように工夫した(表11)。

表11 中学校進学に向けてつきたい力を身につける取組

<本取組のねらい>		○中学校進学に向けて身につけたい力を知る ○中学校進学に向けて身につけたい力を意識して生活する			
	活動名	実施形態	実施方法	ねらいに向かう工夫	関連する「つきたい力」とその工夫
1	中学校進学に向けて身につけたい力の提示	全体	中学校進学に向けて小学校の間に身につけたい力を提示する。	身近な先輩であるC中学校の1, 2年生から中学校進学についてのアドバイスであること、継続して取り組むとよいことを伝え、より意識化させた。	A) 自主的に学習する力 B) 学習の仕方を身につける C) 全体やグループで自分の考えを話す力
2	自分にとって必要な力の分析	全体	中学校進学に向けて、今の自分に必要な力、つきたい力を分析し、まとめる。	身につけたい力の話を聞き、今の自分にとって必要な力、身につけたい力を考えさせた。中学校進学に向けてつきたい力を身につけると中学校生活に役に立つことを促した。	D) 正しい言葉づかい E) だれとでも協力すること F) 時間を考えながら、自分の予定を立てて計画的に行動すること のそれぞれの項目について具体的な手立てを3つ程度提示し、意識して生活を送るように指導した。
3	中学校進学に向けて必要な力の掲示	全体	中学校進学に向けて、必要な力を模造紙にまとめ、教室に掲示する。	目標を掲示することで常に意識化するとともに、他の児童の身につけたい力を参考に、更に中学校進学に向けて身につけたい力を意識させた。	
(児童が書いた中学校進学に向けて身につけたい力)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ これからは、自主的な勉強を進んでできるようになりたい。 ・ 算数や漢字などで暗記する系のものが苦手なので、克服したい。 ・ B小との交流で、声がどうしても小さくなったり、しゃべれなくなったりするので、ちゃんと自分の意見が言えるようにしたい。 ・ 中学校に行ったら、A小学校の子と話し合うときがあるので、話し合う力を身につけたい。 ・ 正しい言葉づかいの力をつけたい。今後の小小連携で、大きな声で恥ずかしがらずにしゃべれたらいいと思う。 ・ よくノリに任せて友達を傷つけてしまうので、気をつけるようにしたい。 ・ つきたい力は「正しい言葉づかい」と「時間を守る習慣」だ。 					

(6) 「C：職員間の連携の充実を図る取組」の実践

今回の取組をより充実させるために、A・B小学校及びC中学校の3校の教員の連携を深める以下の取組を実施した。

ア 小中合同職員研修会での共通理解

8月にC中学校にて、A小学校、B小学校、C中学校の教員が集まり「C中学校区カウンセリングマインド研修及びスクールソーシャルワーカーによる研修」が行われた。3つの小中学校の教員が交わった7つのグループを作り、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの講話を聞いたり、演習を進めたりした。その際、『「C地区の児童・生徒につけたい力について」～C中学校のアンケート結果から～』と題して、C中学校で行ったアンケートの結果を報告する内容を加えた。途中、アンケートの結果から見える児童生徒の実態についてグループごとに話し合う機会を設け、C中学校区の全教員でC中学校1年生の実態について話し合った。小学校、中学校の教員とも関わりのある生徒の実態について9年間を見通してどう指導していくかを話し合える場となった。中学校でのアンケートの報告は、小中学校教員にも身近な話題であり、小学校教員は中学校進学を見据えた指導を、中学校教員は生徒の実態に合わせた指導を意識し、考えることができた。指導に関わった児童生徒の姿を思い浮かべながら話を聞くことができたことは、有効であった。

イ 小小連携の打ち合わせ

小小連携の取組をより効果的なものとするために事前の打ち合わせを充実させた。8月に小小連携の1年間のおおまかな打ち合わせをした後、それぞれの取組ごとに詳細な協議を行った。昨年度までの反省として、打ち合わせが不十分であったことや仲間づくりの工夫が十分でなかったこと、児童につけたい力を意識させる取組となっていなかったことが挙げられていた。その反省を踏まえ、2校の意向をもとに十分に協議し、継続的な連絡調整を行いながら小小連携の取組を進めた。

ウ 小小連携の取組、感想の報告

小小連携の取組で得られた感想文や評価をまとめた報告書を2つの小学校及び中学校に随時フィードバックした。そうすることで、相手校の児童の反応も共有することができた。また、児童の感想については、児童に伝えたり、学級通信で発信したりして、児童や保護者にも意識してもらえるように工夫した。

(7) アンケート結果

ア 仲間づくりについて

(ア) 【設問 1】 中学校進学に向けての不安アンケート（仲間づくり）

事前と事後の値を比較すると、全ての項目において「不安だ」の人数が減少しており「不安ではない」の人数は増加している（図 15）。

(イ) 【設問 3】 仲間づくりアンケート（他の小学校の児童とどれだけ仲良くなったか）

事前と事後の値を比較すると、「他校の児童の顔が分かる」、「名前を知っている」、「顔と名前の両方分かる」の項目では、0人と回答している児童が減少しており、相手校の児童の顔が分かったり、名前を覚えたりできた人数は増加している。一方、「活動中、一緒に遊んだことがある」、「活動中、仲良くしている」、「活動中、何でも話ができる」、「学校以外で出会ったときに話ができる」については、あまり変化は見られなかった（図 16）。

(ウ) 【設問 3】 仲間づくりアンケート（他校との活動の期待度）

事前と事後の値を比較すると、「他校の人と一緒に次の活動をするのが楽しみだ」、「他校の人と中学校で会うのが楽しみだ」の両項目とも、「かなりそう思う」「そう思う」の人数が増えており、「少しそう思う」、「ぜんぜんそう思わない」は減少している（図 17）。

(エ) 【設問 4】 小小連携の有効性（事後調査のみ）

どの項目も 80%以上の児童が、小小連携の取組が「役に立った」、「少し役に立った」と回答している（図 18）。

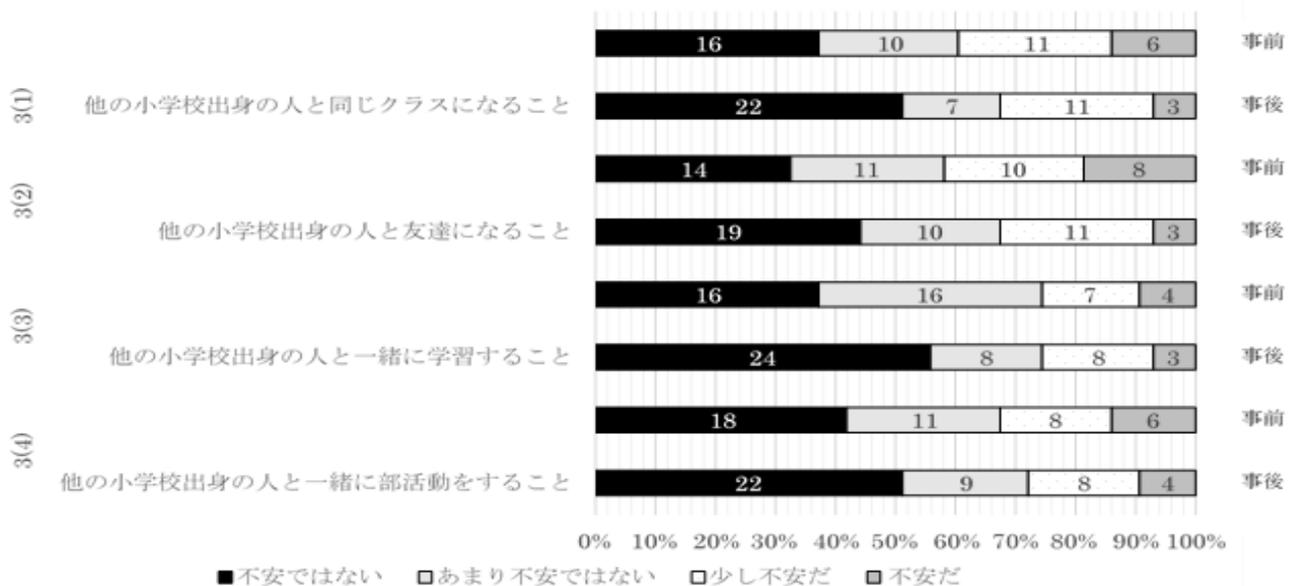


図 15 中学校進学に向けての不安アンケート

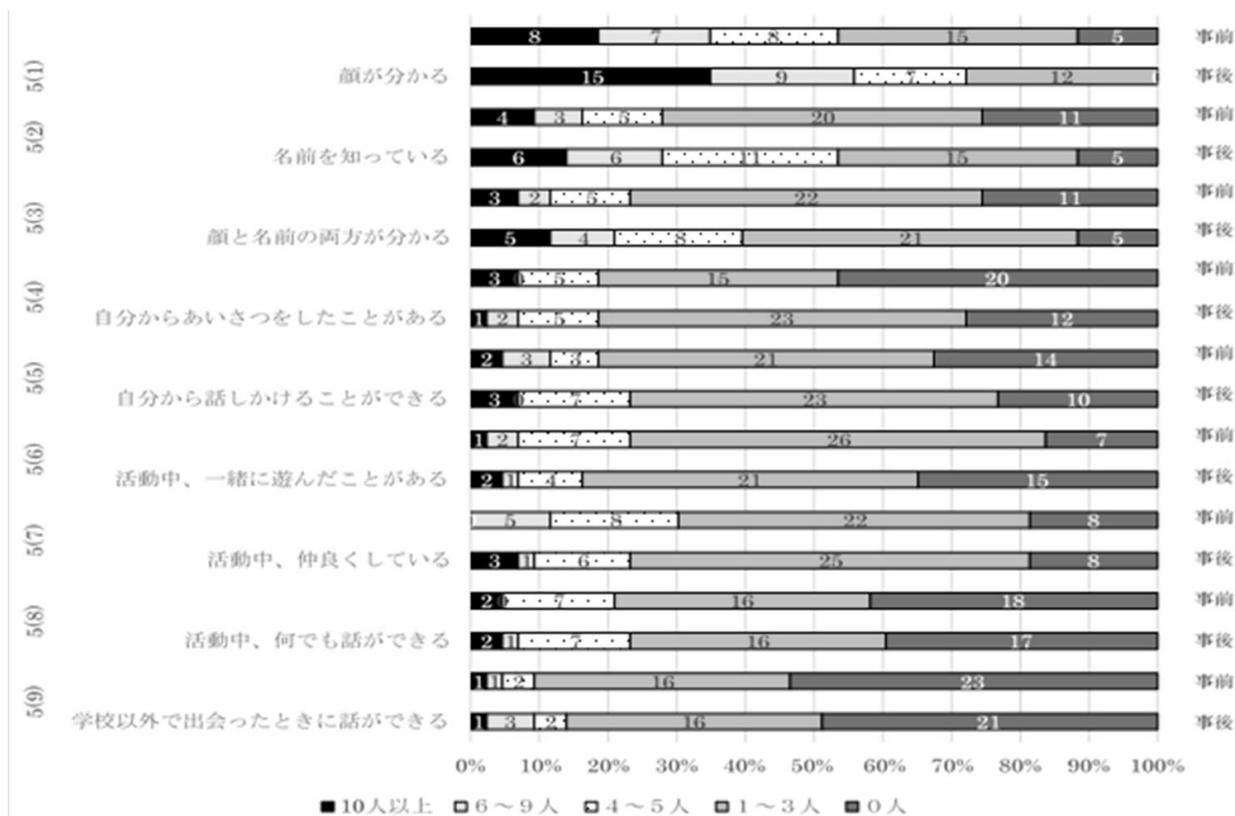


図16 仲間づくりアンケート（他の小学校の児童とどれだけ仲良くなったか）

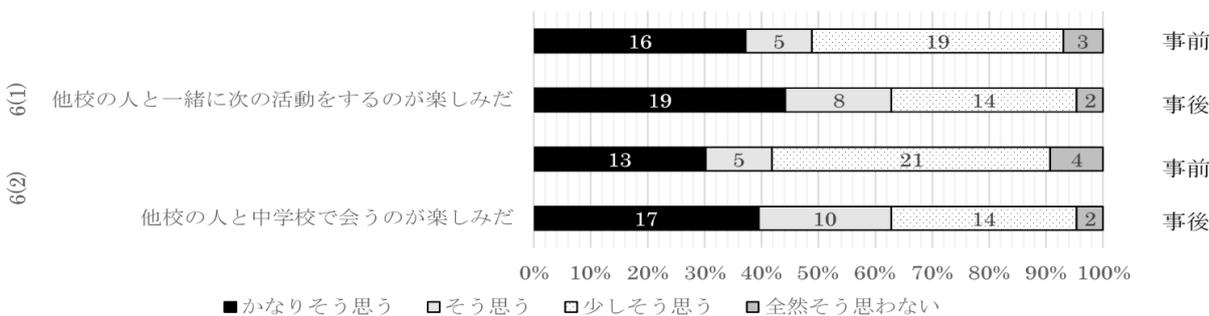


図17 仲間づくりアンケート（他校との活動の期待度）

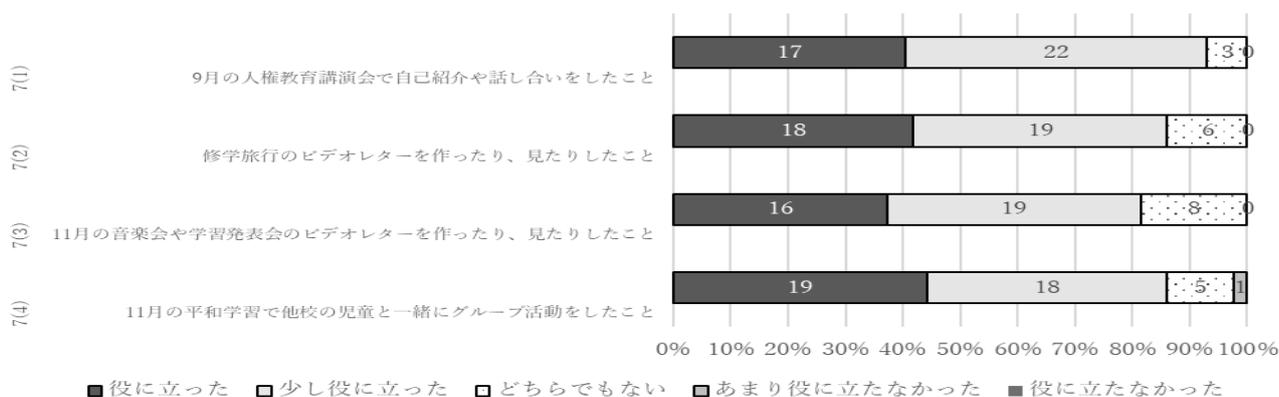


図18 小小連携の取組の有効性

イ 中学校進学への不安について

(ア) 【設問 1】 中学校進学への不安アンケート（学習面）

事前と事後の値を比較してみると、多少の変化はあるものの、ほとんどの項目で大きな変化は見られなかった。ただし、「授業時間が変わること」においてはややネガティブな変化が見られた（図 19）。

(イ) 【設問 1】 中学校進学への不安アンケート（生活面）

事前と事後の値を比較してみると、生活面においても、ほとんどの項目で大きな変化は見られなかった。ただし、「通学の距離や仕方が変わること」においてはややネガティブな変化が見られた（図 20）。

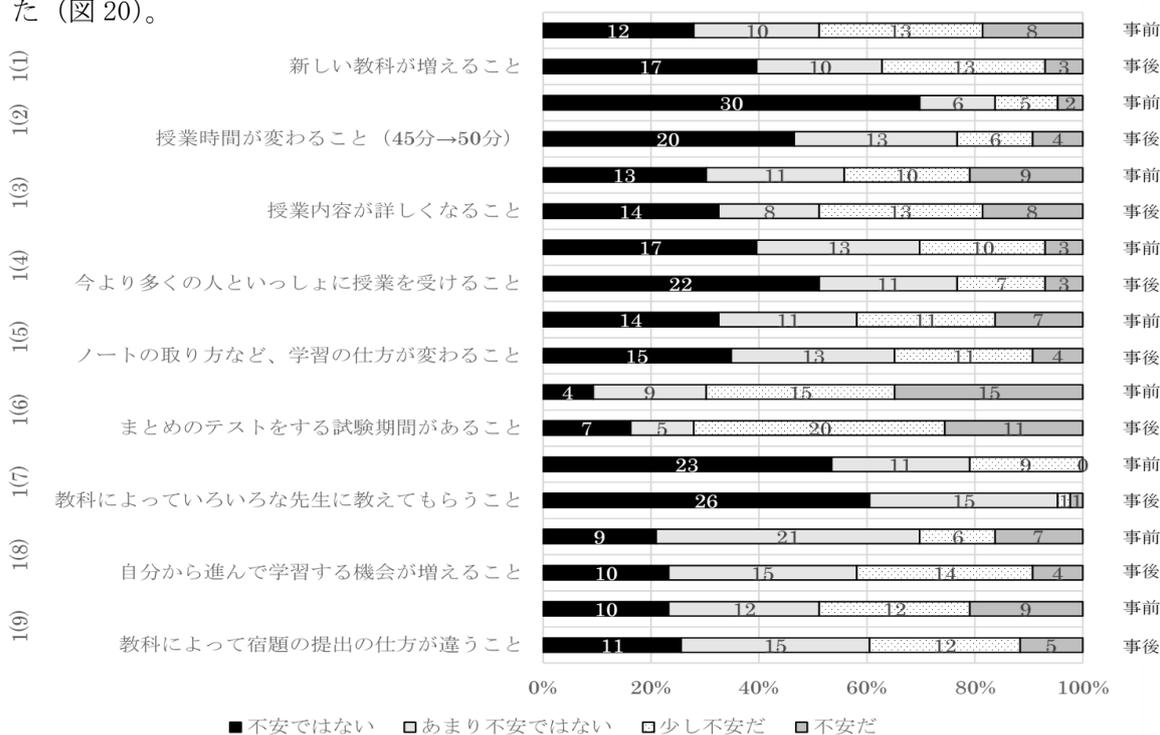


図 19 中学校進学への不安アンケート（学習面）

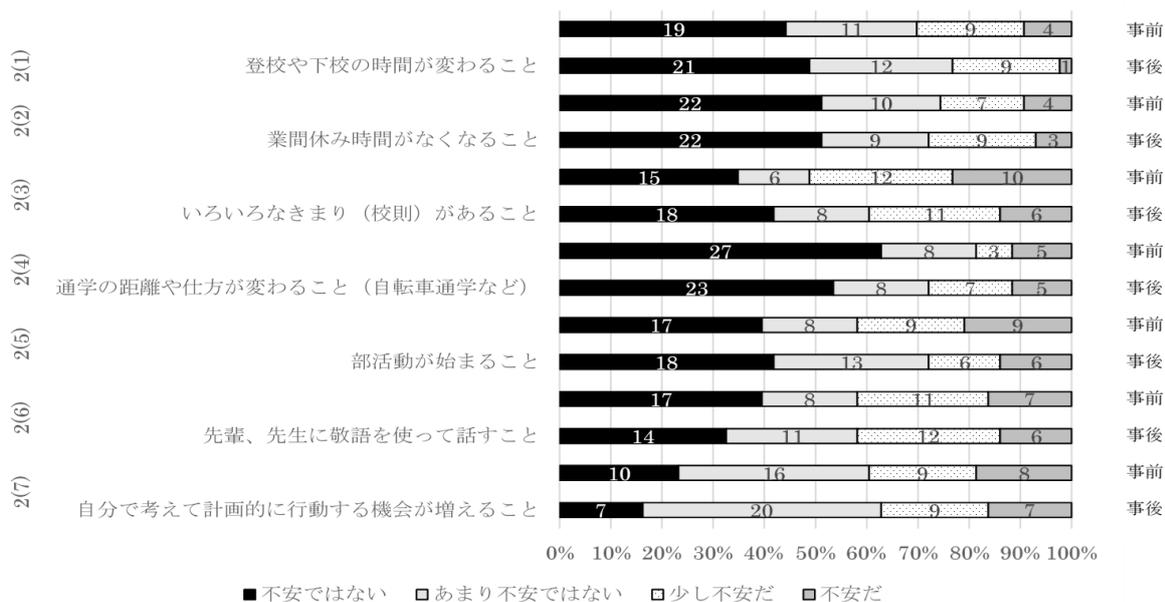


図 20 中学校進学への不安アンケート（生活面）

ウ 中学校進学に向けて身につけたい力について

(ア) 【設問 2】 中学校進学に向けて身につけたい力（学習面）

事前と事後の値を比較してみると、どの項目においても大きな変化は見られなかった（図 21）。

(イ) 【設問 2】 中学校進学に向けて身につけたい力（生活面）

事前と事後の値を比較してみると、どの項目においても大きな変化は見られなかった（図 22）。

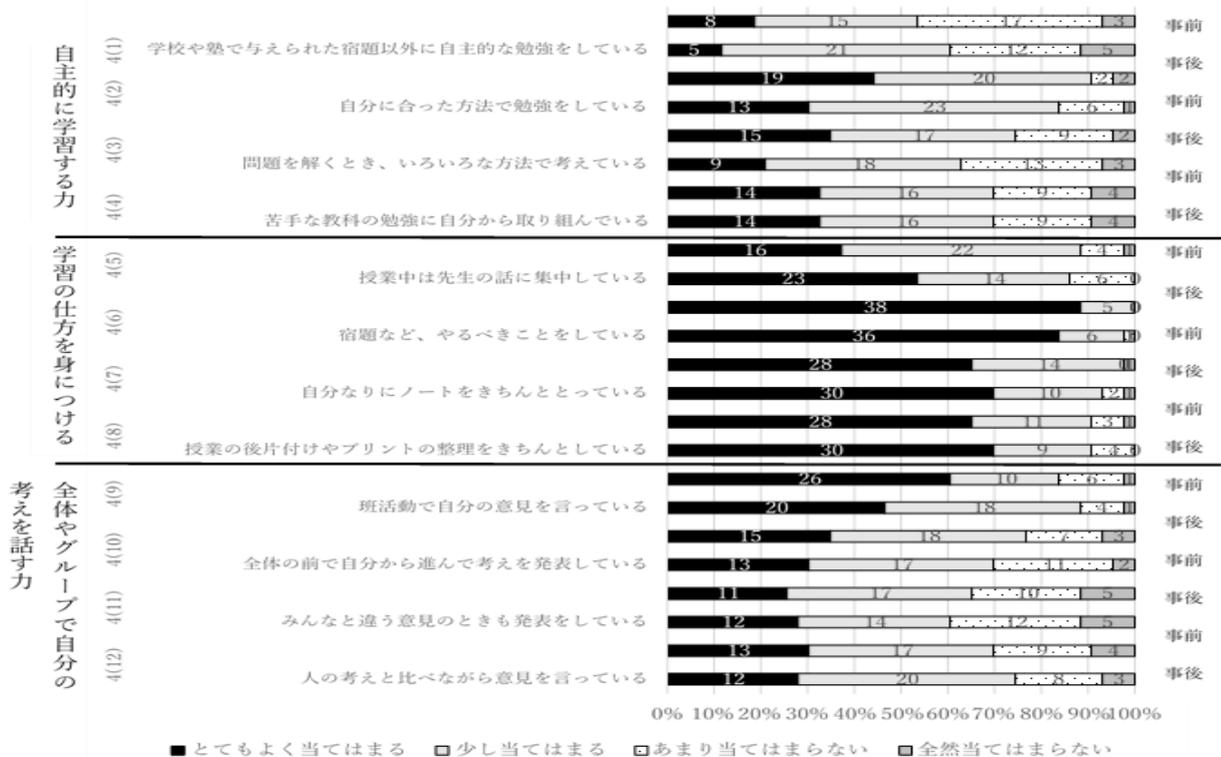


図 21 身につけたい力（学習面）

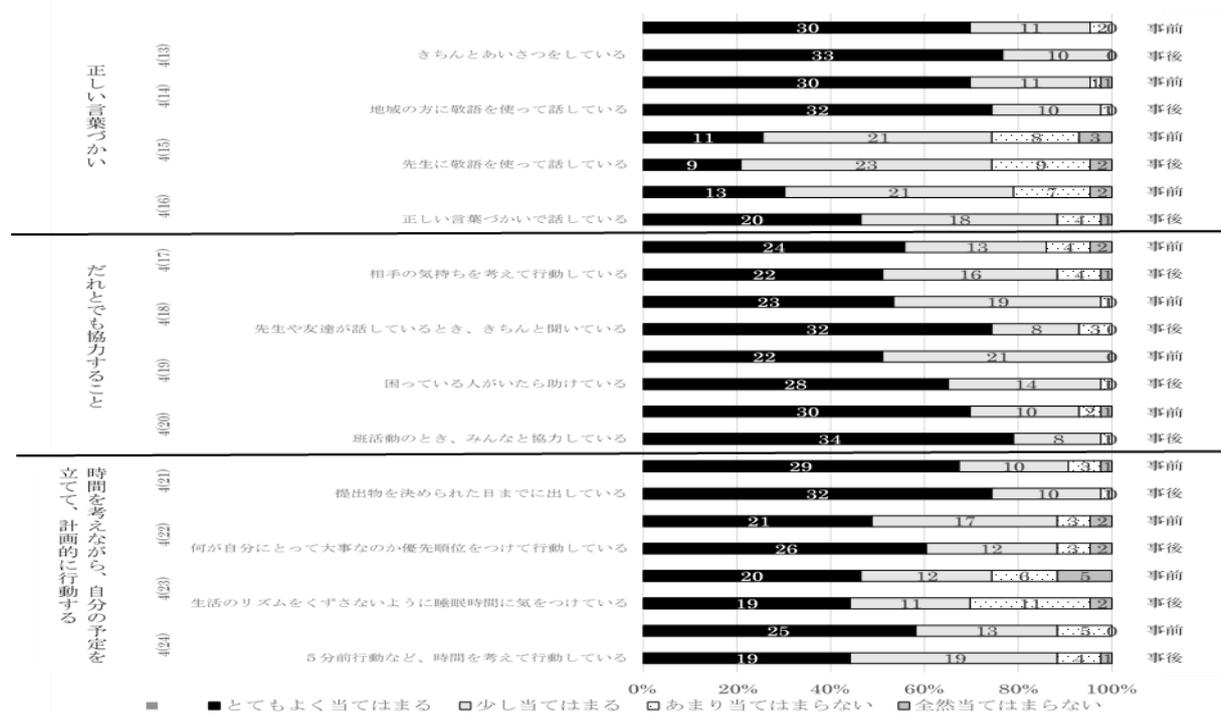


図 22 身につけたい力（生活面）

(8) アンケート結果の考察

ア 仲間づくりについて

仲間づくりにおいては、「他の小学校の児童と交流することへの不安」は減少した児童が多く、「他校との活動の期待度」についても「他校の人と一緒に活動することが楽しみだ」、「他校の人と中学校で会うのが楽しみだ」の両項目で「全然そう思わない」、「そう思わない」の人数が減っており、他校との活動の期待度が高い児童が増えたことが窺える。小小連携の取組でグループ活動を通して協働作業を行ったり、一緒に学習をしたりして活動したことが影響したのではないかと思われる。ただ、「他の小学校児童とどれだけ仲良くなったか」については、顔や名前が分かる程度の関係となれた児童は増加したものの、「活動中、仲良くしている」や「学校以外で出会ったときに話ができる」などのそれ以上の関係には変化がないという結果となった。今回の取組では、グループでの活動が多かったため、全体での交流が少なく、活動の幅が狭かったことや、実際に活動してみて、話せてないことに気づいた児童が多かったためではないかと思われる。また、小小連携の取組については、ほとんどの児童が「役に立った」「少し役に立った」と回答していて、今回の小小連携の取組が有効と感じている児童が多かったことが窺える。

一方、数名の児童においては、他校の児童との交流に対する不安が増し、期待度も下がっていた。これらの児童には個別の対応が必要であると考え、担任に対応を依頼した。

イ 中学校進学への不安について

中学校への不安アンケートの結果では、学習面・生活面ともにあまり大きな変化は見受けられなかった。一部、学習面の「授業時間が変わること」、生活面の「通学の距離や仕方が変わること」についてはややネガティブに変化していた。これは、2学期になって中学校進学がより現実味を帯びてきたことで、具体的な「授業時間」や「通学」のイメージが明確になってきたことによるものと思われる。今回の一連の取組でこれまで以上に中学校進学について考える機会が増えたことも一因となっているかもしれない。だとするならば、2学期の段階で中学校進学に対する具体的なイメージを持てるようになったという結果は、円滑な進学を促すという観点でポジティブに捉えられるのではないだろうか。ただ、いずれにしても、変化は微少であるので、今回の取組は学習面及び生活面に係る不安に対しては期待した効果は見られなかったといえる。

ウ 中学校進学に向けて身につけたい力について

中学校進学に向けて身につけたい力についても、概して大きな変化は見られなかった。今回、中学校進学に向けて身につけたい力に関する取組は、1コマの授業がメインであり、小小連携の活動の中でもそれを意識した構成をしたものの十分な手立てを施すまではできていなかった。取組の時間が短く、手立ても不十分であったことが大きな要因であると考えられる。しかし、一部、「正しい言葉づかい」や「だれとでも協力すること」については、比較的数値が増加しているという結果も見られた。これについては、今回の小小連携でそれらを直接的なねらいとしたグループワーク等を実施したことが結果に表れたためではないかと考えられる。ただ、いずれにしてもこれらの変化は微少であるので、中学校進学に向けて身につけたい力を身につける取組については、今後、十分な手立てと時間をかけた継続した取組やより直接的な取組を行っていく必要があるといえる。

(9) 取組による児童の変容

そもそも多くの児童生徒は不登校にはならない。あくまで、不登校は、全体の数%の児童生徒に見られるものである。だとするならば、児童生徒全体の数値による考察だけでは十分ではないと思われる。そこで、特徴的な3人の児童の変容について紹介する。

ア D児（友達づくりが苦手）

D児は仲良くない人と話すのが苦手で、小小連携の取組が始まる前は別の学校の児童と仲良くなるか不安な気持ちを持っていた。しかし、小小連携の取組が進むにつれて「感想はしっかり言えた」、「意見もしっかり言えた」、「たくさん話せた」ことが自信になり、気持ちが「うれしかった」から「話せるようになりたい」、「次の交流が楽しみ」、そして最後には「中学校で会っても話しやすくなった」に変化していった。取組を進めるにつれて、中学校進学に向けての不安が減少し、期待

に変わったことが窺える（表 12）。

表 12 児童の変容（D児）

児童名	D児（友達づくりが苦手）	
7月【事前調査】 小小連携が始まる前の様子	私は、仲良くない人と話すのが苦手です。クラスの人とも話せない人がいる。そんな私が、別の学校の子達と仲良くなれるか不安だった。	
	自由記述	観察、担任からの聞き取り等
9月【実践1】 人権教育講演会	自己紹介するときは、とても緊張した。でも、感想はしっかり言えたと思う。A小学校の子達と話せてうれしかった。	
10月【実践2】 ビデオレターでの交流	小小連携でA小学校のみんなの名前や好きなことを知りたいし、あまり話したことがない人もしっかり話せるようになりたい。 中学校で、また会えるのを楽しみにしています。A小のみんなと仲良くなりたいので、よろしくお願いします。	劇では、クラスの仲のいい子と班を組み、A校の児童にお礼のメッセージを伝えようと一生懸命に演技をしていた。
11月【実践3】 平和学習	私は班の意見を他の班に発表する係でした。A小学校の子とも交流できたし、意見もしっかり言えました。楽しかったし、次の交流が楽しみになりました。	グループに交じって楽しそうに活動していた。担任からもよく頑張って活動しているという話を聞いた。
12月【事後調査】	私はクラスの人ともあまり話をしません。いるとしても2～3人です。でも、9月の講演会や11月の平和学習でクラスの子ともA小の子ともたくさん話せました。中学校で会っても話しやすくなったと思うし、とても楽しかったです。	活動後であるが、ふるさと学習後に「小小連携はどうでしたか」と質問すると、「自分が出せた。A小学校の児童と話せて楽しかった。中学校でも楽しみです」と笑顔で答えてくれた。

イ E児（協調性に課題）

E児は日頃から他の子とのトラブルが多く、中学校に向けて「けんかなくいけるか」という不安を掲げていた。最初の活動では、他の小学校の児童と話ができず、ちゃんと話したいという感想を持っていた。次の活動では、話せたのでよかったと感想に書き、本人なりに満足はあった様子であった。ただ、活動では、自分勝手な行動が目立ち、本人の思いと実際の状況にギャップがある状態であった。E児は、日常でも友達との関わりで悩んでいるが、普段は単学級でよく知り合えた仲間なので、いつもはそこまで気にならない。しかし、中学校進学に向けて他校の児童ともうまくコミュニケーションを取れるように、E児が仲間関係で困っているときには、その場ですぐに指摘しどう行動したらいいかを考えさせるなど個別の対応を行うことにした。すると、この研究後に実施した2小合同による「ふるさと学習」の取組では、気になる言動はほとんど見られなくなった。決してまだ十分とは言えないが、個別の課題へ対応できたケースといえる（表 13）。

表 13 児童の変容（E児）

児童名	E児（協調性に課題）	
7月【事前調査】 小小連携が始まる前の様子	日頃から対人関係でトラブルが多く、みんなと一緒にどう行動していいか困っている様子である。クラスでは、単学級でよくわかり合えた仲間なので、そこまで気にならない様子である。事後調査では、中学校に向けての不安で「他の人と仲良く、けんかなくいけるか」と掲げていた。	
	自由記述	観察、担任からの聞き取り等
9月【実践1】 人権教育講演会	ちゃんと話せなかったので、もっとちゃんと話したいです。	他の小学校の児童とうまく話ができず悩んでいた。

10月【実践2】 ビデオレターでの交流	みんなと話す。B小学校の子の名前を覚える。これからも仲良く話していきたいです。	B小の子と仲良くなりたいという思いがあった。
11月【実践3】 平和学習	班の人とよく話せたのでよかったです。 (本人なりに満足はあった様子)	自分勝手な行動が目立ち、周りに迷惑をかけている様子。本人の思いと周りの状況にギャップがある状況。 担任と様子について情報交換し、対応について話し合い。
平和学習後		中学校進学に向けて、他校の児童ともうまくコミュニケーションが取れるように、E児が仲間関係で困っているときには、その場ですぐに指摘し、どう行動していいか考えさせるなどの個別の対応を行う。
12月【事後調査】 1月【ふるさと学習】	B小の人達は、とても話しやすいです。仲良くなれたからいい学校だなと思いました。	気になることがずいぶん減っていた。 事後調査の結果からも小小連携や中学校進学に向けての期待度が増加していた。

ウ F児（不登校傾向）

F児は学校を休みがちだが、学校に来ると友達ともよく遊び元気にしている。最初の調査では、「見た目について言われるのが不安」と言っていたが、人権教育講演会では、「一緒に歌えてよかった」と感想に書いており、担任からも問題なく活動に参加していたと報告を受けた。その後も、「顔が分かるようになった」、「普通に話せてよかった」とうまく活動できたことが自信となり、最初は「不安」でいっぱいだった気持ちが徐々に前向きになっていき、最後には「中学校もにぎやかになりそうだ」と中学校への期待を表現するようになった。不登校傾向であったが今回の小小連携の活動にはすべて参加することができ、本人のアンケートの記述からも中学校への期待が窺えた(表14)。

表14 児童の変容（F児）

児童名	F児（不登校傾向）	
7月【事前調査】 小小連携が始まる前の様子	不登校傾向の児童。学校に来ると、友達ともよく遊び、元気にしている。事前調査では、中学校に向けての不安で「男子に見た目のことを言われるから不安」と記述していた。担任は、「アンケートも取れるかな」と心配していた。	
	自由記述	観察、担任からの聞き取り等
9月【実践1】 人権教育講演会	A小の子と交流して一緒に歌を歌えてよかった。	特に問題なく活動に参加できていた。
10月【実践2】 ビデオレターでの交流	中学校でもよろしく。仲良くしましょう。	修学旅行の劇では、仲間と交わり、A小に向けてのメッセージをしっかりと伝えていた。
11月【実践3】 平和学習	後もう少しA小の子の名前を覚えたい。	グループ活動では、みんなの中に入り、参加できていた。A小の児童の顔も覚えられたようであった。
12月【事後調査】	一人ぐらいしか顔が分からなかったけど、平和学習でもう一人顔が分かるようになってよかった。全員の顔が分かるようになりたい。	事後調査からも小小連携の期待度、中学校進学への期待度が増えていた。小小連携の活動には、すべて参加することができ、アンケートの記述からも中学校進学に向けての期待が高まったことが窺える。
1月【ふるさと学習】	詩を作っているときに、A小の子が両隣だったので緊張しました。でも、普通に話せてよかったです。中学校もにぎやかになりそうだなと思いました。	中学校への期待が窺えた。

4 総合考察

(1) 今回の取組による効果

今回の実践研究の目的は「中学校進学時の不安を減少させるために効果的な取組の内容について検証する」ことであった。「A：小小連携による取組」では、あいさつ、話しかける関係ができるようになった児童が増加し、中学校進学に向けての不安を感じていた児童が減少した。また、小小連携の活動、中学校での出会いへの期待度が増加した。他の小学校の児童と仲良くなったことで、中学校進学時の仲間づくりへの不安が減少し、その結果中学校生活への期待が増加したのではないかと考えられる。今回の小小連携の取組では、中学校での事前調査から得られた3つの方針をもとに、仲間づくりの工夫を行った。「お互いによく知り合う場を設ける」ことでは、毎回自己紹介の時間を作り、ゲームを取り入れて楽しみながら活動させたことで、多くの児童が名前と顔を覚えることができた。「混合グループでの活動」では、同じグループに両校の児童が交わるように、また毎回違うメンバーと交流させたことで、より多くの児童とふれあい、人間関係を広げることができた。「協力しないとできない活動」では、KJ法やワールドカフェといった手法を用いて、班の中でお互いが助け合いながら、全員が自分の役割を果たす体験活動を取り入れたことで、両校の児童同士がより深く知り合うことができた。また、他にも、アンケートや観察の結果を用いて個々の振り返りを行い、担任と情報を共有して進めたことで個別の対応につなげることもできた。単に2校の児童と一緒に活動させればよいのではなく、今回のように、ねらいを明確にして、それぞれに適した手立てを施すことが深い仲間づくりにつながるのだと考える。

(2) 不登校未然防止の視点から

今回の小小連携によって、他の学校の児童との仲間づくりの取組を行った結果、中学校に向けての不安が減少した。また、「B：中学校進学に向けてつきたい力を身につける取組」では、学習面や生活面のスキルアップをねらいとした授業を行ったが、取組時間が短かったこともあり十分な効果は得られなかった。ただ、研究1で明らかとなったように、これらの力は中学校進学に向けて必要な力だと考えられるので、今後、継続して取組を行う必要があると思われる。また、今回は行っていないが、小中連携でよく行われている「中学校での体験授業」や「部活動見学」などの「中学校を知る取組」も不安を減少させるために有効であると思われる。今後、これらの取組も併せた検証が必要である。

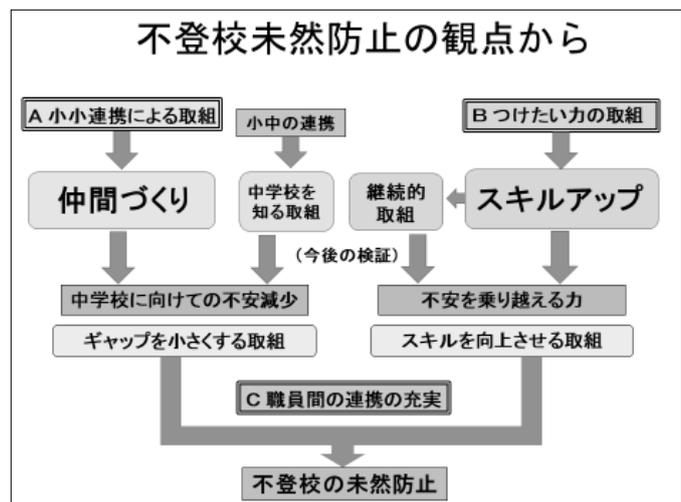


図 23 不登校未然防止の観点から

進学時の不登校対策については「進学というギャップを限りなく小さく設定していく取組とそれをあえて『しかけ』『ハードル』として残し、それを乗り越えるためにスキルの向上を図ること」(神村・相馬・青山・上野・嶋田, 2016)の2つの視点が指摘されており、今回の取組の視点と一致している。この両側面からアプローチすることが新規の不登校を未然に防ぐことにつながるのではないかと考える(図23)。また、そのためには、小小・小中の職員が密に連携を図ることも欠かせない。これらが総合的に作用して不登校の未然防止につながると思われる。

5 まとめと今後の課題

今回の実践研究から、小小連携による仲間づくりを行うことが中学校進学における不安の一側面を低減させることがわかった。更に、学習面や生活面のスキルアップの取組や小中連携による中学校を知る取組を教員が連携して実施することが、中学校進学に向けてのギャップを小さくしたり、スキルを向上させたりすることにつながり中学校進学時における不登校の未然防止につながるのではないかと考える。今後は、スキルアップに向けた取組の検証や、今回の取組によって実際に中学校進学時の不登校数がどう変化したのかなどを検証していく必要がある。

【引用・参考文献】

- 五十嵐哲也 2011 中学進学に伴う不登校傾向の変化と学校生活スキルとの関連 教育心理学研究, 59(1), 64-76.
- 岡山県総合教育センター 2012 不登校の未然防止に関する調査研究—中学校入学前後の予期不安、リアリティショックに焦点を当てて—, 6, 12-05, 1-23.
- 神村栄一・相馬誠一・青山修司・上野昌弘・嶋田洋徳 2016 中1ギャップと小中連携を教育相談から考える—研究・実践の成果— 教育心理学年報, 55, 243-250.
- 草野剛・上地安昭 2002 小学校から中学校への移行期における児童・生徒の期待と不安に関する調査研究 生徒指導研究第14号
- 小泉令三 1992 中学校進学時における生徒の適応過程 教育心理学研究, 40, 348-358.
- 小泉令三・藤田英明 1993 中学校入学後の生徒の適応過程—出身小学校による多数派・少数派との関係— 福岡教育大学紀要, 42, 311-319.
- 小泉令三 1995 中学校入学時の子どもの期待・不安と適応 教育心理学研究, 43, 58-67.
- 古川雅文・小泉令三・浅川潔司 1992 小・中・高等学校を通じた移行 人生移行の発達心理学, 152-178.
- 富家美那子・宮前淳子 2009 教師の視点からみた中1ギャップに関する研究 香川大学教育実践総合研究, 18, 89-101.
- 中村仁志・太田友子・丹佳子・福田奈未 2016 「中1ギャップ」における問題と背景—小学校から中学校への接続における生徒の困り感について— 山口県立大学学術情報, 9, 87-92.
- 新潟県教育庁義務教育課 2008 中1ギャップ解消プログラム～中1ギャップの解消に向けて～ きょういく eye, Vol. 2-03, 1-8.
- 兵庫県教育委員会 2018 平成29年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について (<http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya30/3010/30102577gimu.pdf>)
- 南雅則・浅川潔司・秋光恵子・西村淳 2011 小学生の予期不安と中学校入学後の学校適応感との関係に関する学校心理学的研究 教育心理学研究, 59, 144-154.
- 南雅則・浅川潔司・福本理恵・古河真紀子・松本剛・古川雅文 2011 中学校生活に対する予期不安と入学後の学校適応感に関する研究 第17回日本青年心理学会総会論文集, 103-111.
- 南雅則・浅川潔司・小林小夜子・西垣憲明・村上めぐみ 2015 中学校入学後の学校生活に対する認知と学校適応感の関係 兵庫教育大学学校教育学研究, 27, 71-76.
- 三宅幹子 2017 小学校6年生における中学校生活に対する期待と不安 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 166, 13-19.
- 文部科学省 第66回中央教育審議会初等中等教育分科会 2014 不登校の児童生徒への支援について (ポイント) (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1282487.htm)
- 文部科学省 不登校に関する調査研究協力者会議 2016 不登校児童生徒への支援に関する最終報告～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進～ (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm)
- 文部科学省国立教育政策研究所 2014 不登校の予防 生徒指導リーフ, Leaf. 14, 1-4.
- 文部科学省国立教育政策研究所 2014 「中1ギャップ」の真実 生徒指導リーフ, Leaf. 15, 1-4.
- 文部科学省国立教育政策研究所 2017 PDCA×3＝不登校・いじめの未然防止一点検・見直しの繰り返しで、全ての児童生徒に浸透する取組を— (<http://jairo.nii.ac.jp/0479/00001578>)
- 文部科学省国立教育政策研究所 2018 不登校の数を「継続数」と「新規数」とで考える 生徒指導リーフ, Leaf. 22, 1-4
- 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 2018 平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/10/1410392.htm)
- 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会 学校段階間の連携・接続等に関する作業部会 2012

小中連携，一貫教育に関する主な意見等の整理（骨子案）

〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/045/houkoku/1325182.htm〉

米澤孝雄・内藤勇次・浅川潔司・水俣義朗 1985 小学校から中学校への環境移行（I） 中国四国心理学会論文集，18，57.

謝辞

この研修期間中，県立教育研修所の清瀬欣之所長，田中正晴管理部長，稲次一彦教務部長，矢田一義務教育研修課長をはじめ，所員の皆様に大変お世話になりました。研究におきましても様々な御指導や御助言を賜り，心より感謝申し上げます。

「心の教育総合センター」の松本剛所長，秋光恵子主任研究員，寺戸武志主任指導主事，福田裕子指導主事からも，心の教育について専門的な御指導をいただきました。示唆に富む御指導や御助言により，研究や日々の業務を進めることができました。また，「ひょうごっ子悩み相談センター」の教育相談員，カウンセラーの皆様にも，電話相談業務の心構えや対応等について御指導や御助言をいただきました。本当にありがとうございました。

そして，この貴重な研修の機会を与えていただきました兵庫県教育委員会，加東市教育委員会，また，研究に協力をいただいた小中学校の校長先生をはじめ，職員の皆様に心より感謝申し上げます。

この報告書をもって，多くの皆様に支えられ無事に研修を終えられたことを報告し，感謝の意をお伝えします。

2019年3月29日

加東市立東条西小学校 教諭
不登校対策推進に係る研修員
内藤 博祥

別添資料

【中学校でのアンケート】

- 資料 1 中学校生活への適応 (C 中学校 1 年生)
- 資料 2 中学校生活への適応 (C 中学校 2 年生)
- 資料 3 小小連携の有効性 (C 中学校 1, 2 年生)
- 資料 4 中学校進学に向けて身につけたい力 (C 中学校 1, 2 年生)
- 資料 5 中学校生活への適応 (C 中学校 1 年生) 結果
- 資料 6 中学校生活への適応 (C 中学校 2 年生) 結果
- 資料 7 小小連携の有効性 (C 中学校 1 年生) 結果
- 資料 8 小小連携の有効性 (C 中学校 2 年生) 結果
- 資料 9 中学校進学に向けて身につけたい力 (C 中学校 1, 2 年生) 結果

【小学校でのアンケート】

- 資料 10 中学校に向けての不安 (A, B 小学校 6 年生)
- 資料 11 中学校進学に向けて身につけておきた力 (A, B 小学校 6 年生)
- 資料 12 仲間づくり, 他校との活動の期待度 (A, B 小学校 6 年生)
- 資料 13 小小連携の取組の有効性 (A, B 小学校 6 年生)
- 資料 14 中学校への不安 (A, B 小学校 6 年生) 事前調査結果
- 資料 15 中学校進学に向けて身につけたい力 (A, B 小学校 6 年生) 事前調査結果
- 資料 16 仲間づくり, 他校との活動の期待度 (A, B 小学校 6 年生) 事前調査結果
- 資料 17 中学校への不安 (A, B 小学校 6 年生) 事後調査結果
- 資料 18 中学校進学に向けて身につけたい力 (A, B 小学校 6 年生) 事後調査結果
- 資料 19 仲間づくり, 他校との活動の期待度 (A, B 小学校 6 年生) 事後調査結果
- 資料 20 小小連携の取組の有効性 (A, B 小学校 6 年生) 事後調査結果

資料1 中学校生活への適応（C中学校 1年生）

中学校に入学してからこれまでの中学校生活を振り返ってみて、それぞれの項目に慣れたかどうか教えてください。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

(学習面)	もう慣れた	だいたい慣れた	少し慣れた	まだ慣れない
1(1)教科が増えたこと				
1(2)授業時間が長くなったこと				
1(3)勉強内容が増えたこと				
1(4)発表するときに多くの生徒に注目されること				
1(5)ノートの取り方や学習の進むスピードが変わったこと				
1(6)テスト（範囲が広がったこと、1日に受けるテストの数が変わったことなど）				
1(7)教科ごとに先生が変わること				
1(8)宿題・課題の量が増えたこと				
1(9)宿題・課題の提出の仕方が教科によって違うこと				
(生活面)	もう慣れた	だいたい慣れた	少し慣れた	まだ慣れない
2(1)1日の生活の仕方が変わったこと				
2(2)業間の長い休み時間がないこと				
2(3)いろいろな校則があること				
2(4)通学の仕方が変わったこと（自転車通学、距離）				
2(5)部活動があること（朝や放課後）				
2(6)先輩、先生にあいさつをすること				
2(7)先輩、先生に敬語を使うこと				
2(8)自分で考えて行動する機会が増えたこと				

(人間関係)	仲良くなった	だいたい仲良くなった	少し仲良くなった	まだ仲良くなれていない
3 他の小学校出身の人と仲良くなること				

中学校生活で何か困っていることがあれば書いてください。

資料2 中学校生活への適応（C中学校 2年生）

中学校に入学してからこれまでの中学校生活を振り返ってみて、それぞれの項目にいつ頃慣れたか教えてください。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

（学習面）	すぐに慣れた	1学期のうちに慣れた	1年生の後半頃に慣れた	まだ慣れていない
1(1)教科が増えたこと				
1(2)授業時間が長くなったこと				
1(3)勉強内容が増えたこと				
1(4)発表するときに多くの生徒に注目されること				
1(5)ノートの取り方や学習の進むスピードが変わったこと				
1(6)テスト（範囲が広がったこと、1日に受けるテストの数が変わったこと等）				
1(7)教科ごとに先生が変わること				
1(8)宿題・課題の量が増えたこと				
1(9)宿題・課題の提出の仕方が教科によって違うこと				
（生活面）	すぐに慣れた	1学期のうちに慣れた	1年生の後半頃に慣れた	まだ慣れていない
2(1)1日の生活の仕方が変わったこと				
2(2)業間休みがないこと				
2(3)いろいろな校則があること				
2(4)通学の仕方が変わったこと（自転車通学、距離）				
2(5)部活動があること（朝や放課後）				
2(6)先輩、先生にあいさつをすること				
2(7)先輩、先生に敬語を使うこと				
2(8)自分で考えて行動する機会が増えたこと				

（人間関係）	仲良くなった	だいたい仲良くなった	少し仲良くなった	まだ仲良くなれていない
3 他の小学校出身の人と仲良くなること				

中学校に入学した頃に困っていたことがあれば書いてください。

資料3 小小連携の有効性（C中学校1,2年生）

小学校のときにどんなことをしていれば中学校生活への不安を減らすことや、中学校生活にスムーズに入ることに役立つと思いますか。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

	すごく役立つと思う	役立つと思う	少し役立つと思う	あまり役立たないと思う	わからない
4(1) A・B小学校でいっしょに社会見学や自然学校の行事を行うこと					
4(2) A・B小学校でいっしょに活動するときに自己紹介を行うこと					
4(3) A・B小学校でいっしょに活動するときに遊びの活動を入れること					
4(4) A・B小学校でいっしょに活動するときに2つの小学校を混ぜてグループを作ること					
4(5) A・B小学校でいっしょに授業を受けること					
4(6) A・B小学校でいっしょに活動するときに話し合いをして、おたがいの考えを発表すること					
4(7) A・B小学校でいっしょに活動するときにグループで協力しないとできないような活動を行うこと					

中学校入学に向けての不安を減らすために、小学校のときにしておけば良いと思うことがあれば書いてください。

資料4 中学校進学に向けて身につけたい力 (C中学校 1,2年生)

小学校時代にどんな力や習慣を身につけておけば、中学校への不安が減ると思いますか。下に書いてある力の中で、あなたが特に大事だと思うもの3つを選んでください。大事だと思う順に番号で書いてください。

学習面

- (1) 学習の基礎的な力
- (2) 全体やグループの中で自分の考えを話す力
- (3) 自分の考えを書く力
- (4) 話を理解しながら聞く力
- (5) 自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力
- (6) 読書の習慣
- (7) 学習の仕方(授業を受ける態度, ノート)
- (8) 学習を最後までやり遂げる力

1番大事() 2番目に大事() 3番目に大事()

生活面

- (1) 家庭学習を毎日行う習慣
- (2) だれとでも協力できること
- (3) 時間を守る習慣
- (4) 自分の予定を立てて計画的に行動する習慣
- (5) 正しい言葉づかい(敬語)
- (6) 体力
- (7) きちんと物事をやり遂げる習慣

1番大事() 2番目に大事() 3番目に大事()

中学校入学に向けて、他に付けておけば良い力や習慣(小学校時にやっておくといいこと)があれば書いてください。

資料5 中学校生活への適応（C中学校 1年生）結果

中学校に入学してからこれまでの中学校生活を振り返ってみて、それぞれの項目に慣れたかどうか教えてください。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

(学習面)	もう慣れた	だいたい慣れた	少し慣れた	まだ慣れない
1(1)教科が増えたこと	31 (53%)	19 (33%)	6 (10%)	2 (3%)
1(2)授業時間が長くなったこと	41 (71%)	14 (24%)	2 (3%)	1 (2%)
1(3)勉強内容が増えたこと	17 (29%)	26 (45%)	8 (14%)	5 (9%)
1(4)発表するときに多くの生徒に注目されること	41 (71%)	9 (16%)	6 (10%)	2 (3%)
1(5)ノートの取り方や学習の進むスピードが変わったこと	28 (48%)	16 (28%)	9 (16%)	5 (9%)
1(6)テスト(範囲が広がったこと, 1日に受けるテストの数が変わったことなど)	11 (19%)	20 (34%)	18 (31%)	9 (16%)
1(7)教科ごとに先生が変わること	50 (86%)	8 (14%)	0 (0%)	0 (0%)
1(8)宿題・課題の量が増えたこと	18 (31%)	23 (40%)	12 (21%)	5 (9%)
1(9)宿題・課題の提出の仕方が教科によって違うこと	32 (55%)	13 (22%)	10 (17%)	3 (5%)
(生活面)	もう慣れた	だいたい慣れた	少し慣れた	まだ慣れない
2(1)1日の生活の仕方が変わったこと	35 (60%)	17 (29%)	5 (9%)	1 (2%)
2(2)業間の休み時間がないこと	42 (72%)	10 (17%)	6 (10%)	0 (0%)
2(3)いろいろな校則があること	35 (60%)	15 (26%)	7 (12%)	1 (2%)
2(4)通学の仕方が変わったこと(自転車通学, 距離)	46 (79%)	8 (14%)	4 (7%)	0 (0%)
2(5)部活動があること(朝や放課後)	39 (67%)	15 (26%)	3 (5%)	0 (0%)
2(6)先輩, 先生にあいさつをすること	44 (76%)	14 (24%)	0 (0%)	0 (0%)
2(7)先輩, 先生に敬語を使うこと	27 (47%)	21 (36%)	7 (12%)	2 (3%)
2(8)自分で考えて行動する機会が増えたこと	21 (36%)	28 (48%)	7 (12%)	1 (2%)
(人間関係)	仲良くなった	だいたい仲良くなった	少し仲良くなった	まだ仲良くなれていない
3 他の小学校出身の人と仲良くなること	38 (66%)	16 (28%)	1 (2%)	1 (2%)

資料6 中学校生活への適応（C 中学校 2 年生）結果

中学校に入学してからこれまでの中学校生活を振り返ってみて、それぞれの項目にいつ慣れたか教えてください。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

(学習面)	すぐに慣れた	1学期のうちに慣れた	1年生の後半頃に慣れた	まだ慣れていない
1(1)教科が増えたこと	23人(50%)	21人(46%)	1人(2%)	1人(2%)
1(2)授業時間が長くなったこと	29人(63%)	13人(28%)	2人(4%)	2人(4%)
1(3)勉強内容が増えたこと	12人(26%)	24人(52%)	5人(11%)	5人(11%)
1(4)発表するときに多くの生徒に注目されること	24人(53%)	13人(28%)	1人(2%)	8人(17%)
1(5)ノートの取り方や学習の進むスピードが変わったこと	23人(50%)	19人(41%)	2人(4%)	2人(4%)
1(6)テスト(範囲が広がったこと、1日に受けるテストの数が変わったことなど)	12人(26%)	15人(33%)	13人(28%)	6人(13%)
1(7)教科ごとに先生が変わること	38人(83%)	6人(13%)	2人(4%)	0人(0%)
1(8)宿題・課題の量が増えたこと	23人(50%)	14人(30%)	5人(11%)	4人(9%)
1(9)宿題・課題の提出の仕方が教科によって違うこと	26人(57%)	13人(28%)	6人(13%)	1人(2%)
(生活面)	すぐに慣れた	1学期のうちに慣れた	1年生の後半頃に慣れた	まだ慣れていない
2(1)1日の生活の仕方が変わったこと	23人(50%)	15人(33%)	4人(9%)	4人(9%)
2(2)業間休みがないこと	34人(74%)	10人(22%)	2人(4%)	0人(0%)
2(3)いろいろな校則があること	30人(65%)	11人(24%)	5人(11%)	0人(0%)
2(4)通学の仕方が変わったこと(自転車通学, 距離)	34人(74%)	10人(22%)	2人(4%)	0人(0%)
2(5)部活動があること(朝や放課後)	24人(52%)	12人(26%)	6人(13%)	4人(9%)
2(6)先輩, 先生にあいさつをすること	28人(61%)	8人(17%)	6人(13%)	4人(9%)
2(7)先輩, 先生に敬語を使うこと	23人(50%)	17人(37%)	4人(9%)	2人(4%)
2(8)自分で考えて行動する機会が増えたこと	13人(28%)	23人(50%)	8人(17%)	2人(4%)
(人間関係)	仲良くなった	だいたい仲良くなった	少し仲良くなった	まだ仲良くなれていない
3 他の小学校出身の人と仲良くなること	26人(57%)	13人(28%)	3人(7%)	4人(9%)

資料7 小小連携の有効性（C 中学校 1 年生）結果

小学校のときにどんなことをしていれば中学校生活への不安を減らすことや、中学校生活にスムーズに入ることに役立つと思いますか。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

	すごく役立つと思う	役立つと思う	少し役立つと思う	あまり役立たないと思う	わからない
4(1)A・B 小学校でいっしょに社会見学や自然学校の行事を行うこと	38人(66%)	16人(28%)	3人(5%)	0人(0%)	1人(2%)
4(2)A・B 小学校でいっしょに活動するときに自己紹介を行うこと	41人(71%)	11人(19%)	5人(9%)	1人(2%)	0人(0%)
4(3)A・B 小学校でいっしょに活動するときに遊びの活動を入れること	36人(62%)	18人(31%)	3人(5%)	1人(2%)	0人(0%)
4(4)A・B 小学校でいっしょに活動するときに2つの小学校を混ぜてグループを作ること	41人(71%)	12人(21%)	5人(9%)	0人(0%)	0人(0%)
4(5)A・B 小学校でいっしょに授業を受けること	33人(57%)	21人(36%)	4人(7%)	0人(0%)	0人(0%)
4(6)A・B 小学校でいっしょに活動するときに話し合いをして、おたがいの考えを発表すること	37人(64%)	14人(24%)	6人(10%)	1人(2%)	0人(0%)
4(7)A・B 小学校でいっしょに活動するときにグループで協力しないとできないような活動を行うこと	43人(74%)	14人(24%)	1人(2%)	0人(0%)	0人(0%)

資料8 小小連携の有効性（C 中学校2年生）結果

小学校のときにどんなことをしていれば中学校生活への不安を減らすことや、中学校生活にスムーズに入ることに役立つと思いますか。自分の考えに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

	すごく役立つと思う	役立つと思う	少し役立つと思う	あまり役立つな いと思う	わからない
4(1)A・B 小学校でいっしょに社会見学や自然学校の行事を行うこと	18人(39%)	18人(39%)	2人(4%)	3人(7%)	5人(11%)
4(2)A・B 小学校でいっしょに活動するときに自己紹介を行うこと	15人(33%)	16人(35%)	5人(11%)	5人(11%)	5人(11%)
4(3)A・B 小学校でいっしょに活動するときに遊びの活動を入れること	12人(26%)	16人(35%)	6人(13%)	3人(7%)	8人(17%)
4(4)A・B 小学校でいっしょに活動するときに2つの小学校を混ぜてグループを作ること	14人(30%)	17人(37%)	7人(15%)	2人(4%)	6人(13%)
4(5)A・B 小学校でいっしょに授業を受けること	8人(17%)	19人(41%)	10人(22%)	4人(9%)	5人(11%)
4(6)A・B 小学校でいっしょに活動するときに話し合いをして、おたがいの考えを発表すること	11人(24%)	15人(33%)	12人(26%)	0人(0%)	8人(17%)
4(7)A・B 小学校でいっしょに活動するときにグループで協力しないとできないような活動を行うこと	16人(35%)	14人(30%)	7人(15%)	4人(9%)	5人(11%)

資料9 中学校進学に向けて身につけたい力

(C 中学校 1,2 年生) 結果

小学校時代にどんな力や習慣を身につけておけば、中学校への不安が減ると思いますか。下に書いてある力の中で、あなたが特に大事だと思うもの3つを選んでください。大事だと思う順に番号で書いてください。

学習面

- (1) 学習の基礎的な力
- (2) 全体やグループの中で自分の考えを話す力
- (3) 自分の考えを書く力
- (4) 話を理解しながら聞く力
- (5) 自分が興味をもったことや苦手なことを自主的に学習する力
- (6) 読書の習慣
- (7) 学習の仕方（授業を受ける態度、ノート）
- (8) 学習を最後までやり遂げる力

C 中学校 1 年

	1 番大事 (人)	2 番大事 (人)	3 番大事 (人)
(1)	8	5	5
(2)	11	9	8
(3)	5	8	7
(4)	4	7	5
(5)	11	11	11
(6)	0	1	5
(7)	10	11	6
(8)	9	6	11

C 中学校 2 年

	1 番大事 (人)	2 番大事 (人)	3 番大事 (人)
(1)	9	5	4
(2)	5	9	5
(3)	3	5	7
(4)	9	7	5
(5)	8	6	8
(6)	2	1	6
(7)	6	9	6
(8)	4	4	5

生活面

- (1) 家庭学習を毎日行う習慣
- (2) だれとでも協力できること
- (3) 時間を守る習慣
- (4) 自分の予定を立てて計画的に行動する習慣
- (5) 正しい言葉づかい（敬語）
- (6) 体力
- (7) きちんと物事をやり遂げる習慣

C 中学校 1 年

	1 番大事 (人)	2 番大事 (人)	3 番大事 (人)
(1)	4	7	10
(2)	14	7	6
(3)	12	12	13
(4)	13	8	6
(5)	11	16	4
(6)	1	4	3
(7)	3	4	16

C 中学校 2 年

	1 番大事 (人)	2 番大事 (人)	3 番大事 (人)
(1)	13	2	6
(2)	10	7	8
(3)	7	7	6
(4)	6	6	11
(5)	6	8	8
(6)	2	4	1
(7)	2	12	6

資料 10 中学校に向けての不安（A,B 小学校 6 年生）

あなたは、来年度の中学校生活を考えたとき、下のことがらはどれくらい不安ですか。自分の気持ちに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

(学習面)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
1(1)新しい教科がふえること				
1(2)授業時間が変わること（45分→50分）				
1(3)勉強内容がくわしくなること				
1(4)今より多くの人といっしょに授業を受けること				
1(5)ノートの取り方など、学習の仕方が変わること				
1(6)まとめのテストをする試験期間があること				
1(7)教科によっていろいろな先生に教えてもらうこと				
1(8)自分から進んで学習する機会がふえること				
1(9)教科によって宿題の提出の仕方がちがうこと				
(生活面)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
2(1)登校や下校の時間が変わること				
2(2)業間休みがなくなること				
2(3)いろいろなきまり（校則）があること				
2(4)通学の距離や仕方が変わること（自転車通学など）				
2(5)部活動が始まること				
2(6)先輩や先生にけい語を使って話すこと				
2(7)自分で考えて計画的に行動する機会がふえること				
(人間関係)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
3(1)他の小学校出身の人と同じクラスになること				
3(2)他の小学校出身の人と友達になること				
3(3)他の小学校出身の人といっしょに学習すること				
3(4)他の小学校出身の人といっしょに部活動をする				

中学校生活で何か不安に思っていることがあれば書いてください。

資料 11 中学校進学に向けて身につけたい力
(A,B 小学校 6 年生)

あなたは、今の生活を考えたとき、下のことがらはどれくらい当てはまりますか。
自分の気持ちにいちばん近いところに1つだけ○をつけてください。

	とてもよく 当てはまる	すこし 当てはまる	あまり当て はまらない	ぜんぜん当て はまらない
4(1)学校やじゅくで与えられた宿題以外に自主的な勉強をしている				
4(2)自分に合った方法で勉強をしている				
4(3)問題を解くとき、いろいろな方法で考えている				
4(4)苦手な教科の勉強に自分から取り組んでいる				
4(5)授業中は先生の話に集中している				
4(6)宿題など、やるべきことをしている				
4(7)自分なりにノートをきちんととっている				
4(8)授業の後かたづけやプリントの整理をきちんとしている				
4(9)班活動で自分の意見を言っている				
4(10)全体の前で自分から進んで考えを発表している				
4(11)みんなとちがう意見のときも発表をしている				
4(12)人の考えと比べながら意見を言っている				
4(13)きちんとあいさつをしている				
4(14)地いきの ^{かた} 方にけい語を使って話している				
4(15)先生にけい語を使って話している				
4(16)正しい言葉づかいで話している				
4(17)相手の気持ちを考えて行動している				
4(18)先生や友だちが話しているとき、きちんと聞いている				
4(19)困っている人がいたら助けている				
4(20)班活動のとき、みんなと協力している				
4(21)てい出物を決められた日までにを出している				
4(22)何が自分にとって大事なのか優先順位をつけて行動している				
4(23)生活のリズムをくずさないように睡眠時間に気をつけている				
4(24)5分前行動など、時間を考えて行動している				

資料 12 仲間づくり
他校との活動の期待度 (A,B 小学校 6 年生)

これから、他校の小学校との交流が始まります。他校の小学校の 6 年生の中で(1)～(9)に当てはまる人は何人ぐらいいますか。1つだけ○をつけてください。

	0人	1～3人	4～5人	6～9人	10人以上
5(1)顔が分かる					
5(2)名前を知っている					
5(3)顔と名前が両方分かる					
5(4)自分からあいさつをしたことがある					
5(5)自分から話しかけることができる					
5(6)活動中、いっしょに遊んだことがある					
5(7)活動中、なかよくしている					
5(8)活動中、何でも話ができる					
5(9)学校以外で出会ったときに話ができる					

次の質問で今の自分の気持ちに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

	かなり そう思う	そう思う	少し そう思う	ぜんぜんそ う思わない
6(1)他校の小学校の人といっしょに次の活動をするのが楽しみだ				
6(2)他校の小学校の人と中学校で会うのが楽しみだ				

資料 13 小小連携の取組の有効性（A,B 小学校 6 年生）

A小学校とB小学校がいっしょに活動した次のそれぞれの取組は、他校の小学校の児童の名前を覚えたり、児童と交わったり、仲良くなったりするのにどれくらい役立ちましたか？自分の気持ちにいちばん近いところに1つだけ○をつけてください。

7（1）9月の人権教育講演会で自己紹介や話し合いをしたこと

5 4 3 2 1

役に立った

役に立たなかった

7（2）修学旅行のビデオレターを作ったり、見たりしたこと

5 4 3 2 1

役に立った

役に立たなかった

7（3）11月の音楽会や学習発表会のビデオレターを作ったり、見たりしたこと

5 4 3 2 1

役に立った

役に立たなかった

7（4）11月の平和学習で、他校の小学校の児童といっしょにグループ活動をしたこと

5 4 3 2 1

役に立った

役に立たなかった

7（5）他校の児童と交流して、良かったことや感じたことを書きましょう。

--

資料 14 中学校への不安（A,B 小学校 6 年生）事前調査結果

あなたは、来年度の中学校生活を考えたとき、下のことがらはどれくらい不安ですか。自分の気持ちに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

(学習面)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
1(1)新しい教科がふえること	12 (28%)	10 (23%)	13 (30%)	8 (19%)
1(2)授業時間が変わること (45分→50分)	30 (70%)	6 (14%)	5 (12%)	2 (5%)
1(3)勉強内容がくわしくなること	13 (30%)	11 (26%)	10 (23%)	9 (21%)
1(4)今より多くの人といっしょに授業を受けること	17 (40%)	13 (30%)	10 (23%)	3 (7%)
1(5)ノートの取り方など、学習の仕方が変わること	14 (33%)	11 (26%)	11 (26%)	7 (16%)
1(6)まとめのテストをする試験期間があること	4 (9%)	9 (21%)	15 (35%)	15 (35%)
1(7)教科によっていろいろな先生に教えてもらうこと	23 (53%)	11 (26%)	9 (21%)	0 (0%)
1(8)自分から進んで学習する機会がふえること	9 (21%)	21 (49%)	6 (14%)	7 (16%)
1(9)教科によって宿題の提出の仕方がちがうこと	10 (23%)	12 (28%)	12 (28%)	9 (21%)
(生活面)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
2(1)登校や下校の時間が変わること	19 (44%)	11 (26%)	9 (21%)	4 (9%)
2(2)業間休みがなくなること	22 (51%)	10 (23%)	7 (16%)	4 (9%)
2(3)いろいろなきまり(校則)があること	15 (35%)	6 (14%)	12 (28%)	10 (23%)
2(4)通学の距離や仕方が変わること (自転車通学など)	27 (63%)	8 (19%)	3 (7%)	5 (12%)
2(5)部活動が始まること	17 (40%)	8 (19%)	9 (21%)	9 (21%)
2(6)先輩や先生にけい語を使って話すこと	17 (40%)	8 (19%)	11 (26%)	7 (16%)
2(7)自分で考えて計画的に行動する機会がふえること	10 (23%)	16 (37%)	9 (21%)	8 (19%)
(人間関係)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
3(1)他の小学校出身の人と同じクラスになること	16 (37%)	10 (23%)	11 (26%)	6 (14%)
3(2)他の小学校出身の人と友達になること	14 (33%)	11 (26%)	10 (23%)	8 (19%)
3(3)他の小学校出身の人といっしょに学習すること	16 (37%)	16 (37%)	7 (16%)	4 (9%)
3(4)他の小学校出身の人といっしょに部活動をする事	18 (42%)	11 (26%)	8 (19%)	6 (14%)

資料 15 中学校進学に向けて身につけたい力
(A,B 小学校 6 年生) 事前調査結果

あなたは、今の生活を考えたとき、下のことがらはどれくらい当てはまりますか。
自分の気持ちにいちばん近いところに1つだけ○をつけてください。

	とてもよく 当てはまる	すこし 当てはまる	あまり当て はまらない	ぜんぜん当て はまらない
4(1)学校やじゅくで与えられた宿題以外に自主的な勉強をしている	8 (19%)	15 (35%)	17 (40%)	3 (7%)
4(2)自分に合った方法で勉強をしている	19 (44%)	20 (47%)	2 (5%)	2 (5%)
4(3)問題を解くとき、いろいろな方法で考えている	15 (35%)	17 (40%)	9 (21%)	2 (5%)
4(4)苦手な教科の勉強に自分から取り組んでいる	14 (33%)	16 (37%)	9 (21%)	4 (9%)
4(5)授業中は先生の話に集中している	16 (37%)	22 (51%)	4 (9%)	1 (2%)
4(6)宿題など、やるべきことをしている	38 (88%)	5 (12%)	0 (0%)	0 (0%)
4(7)自分なりにノートをきちんととっている	28 (65%)	14 (33%)	0 (0%)	1 (2%)
4(8)授業の後かたづけやプリントの整理をきちんとしている	28 (65%)	11 (26%)	3 (7%)	1 (2%)
4(9)班活動で自分の意見を言っている	26 (60%)	10 (23%)	6 (14%)	1 (2%)
4(10)全体の前で自分から進んで考えを発表している	15 (35%)	18 (42%)	7 (16%)	3 (7%)
4(11)みんなとちがう意見のときも発表をしている	11 (26%)	17 (40%)	10 (23%)	5 (12%)
4(12)人の考えと比べながら意見を言っている	13 (30%)	17 (40%)	9 (21%)	4 (9%)
4(13)きちんとあいさつをしている	30 (70%)	11 (26%)	2 (5%)	0 (0%)
4(14)地いきの方にけい語を使って話している	30 (70%)	11 (26%)	1 (2%)	1 (2%)
4(15)先生にけい語を使って話している	11 (26%)	21 (49%)	8 (19%)	3 (7%)
4(16)正しい言葉づかいで話している	13 (30%)	21 (49%)	7 (16%)	2 (5%)
4(17)相手の気持ちを考えて行動している	24 (56%)	13 (30%)	4 (9%)	2 (5%)
4(18)先生や友だちが話しているとき、きちんと聞いている	23 (53%)	19 (44%)	1 (2%)	0 (0%)
4(19)困っている人がいたら助けている	22 (51%)	21 (49%)	0 (0%)	0 (0%)
4(20)班活動のとき、みんなと協力している	30 (70%)	10 (23%)	2 (5%)	1 (2%)
4(21)てい出物を決められた日までにしている	29 (67%)	10 (23%)	3 (7%)	1 (2%)
4(22)何が自分にとって大事なのか優先順位をつけて行動している	21 (49%)	17 (40%)	3 (7%)	2 (5%)
4(23)生活のリズムをくずさないように睡眠時間に気をつけている	20 (47%)	12 (28%)	6 (14%)	5 (12%)
4(24)5分前行動など、時間を考えて行動している	25 (58%)	13 (30%)	5 (12%)	0 (0%)

資料 16 仲間づくり
 他校との活動の期待度（A,B 小学校 6 年生）
 事前調査結果

これから、他の小学校との交流が始まります。他の小学校の 6 年生の中で(1)～(9)に当てはまる人は何人ぐらいいますか。1つだけ○をつけてください。

	0人	1～3人	4～5人	6～9人	10人以上
5(1)顔が分かる	5 (12%)	15 (35%)	8 (19%)	7 (16%)	8 (19%)
5(2)名前を知っている	11 (26%)	20 (47%)	5 (12%)	3 (7%)	4 (9%)
5(3)顔と名前が両方分かる	11 (26%)	22 (51%)	5 (12%)	2 (5%)	3 (7%)
5(4)自分からあいさつをしたことがある	20 (47%)	15 (35%)	5 (12%)	0 (0%)	3 (7%)
5(5)自分から話しかけることができる	14 (33%)	21 (49%)	3 (7%)	3 (7%)	2 (5%)
5(6)活動中、いっしょに遊んだことがある	7 (16%)	26 (60%)	7 (16%)	2 (5%)	1 (2%)
5(7)活動中、なかよくしている	8 (19%)	22 (51%)	8 (19%)	5 (12%)	0 (0%)
5(8)活動中、何でも話ができる	18 (42%)	16 (37%)	7 (16%)	0 (0%)	2 (5%)
5(9)学校以外で出会ったときに話ができる	23 (53%)	16 (37%)	2 (5%)	1 (2%)	1 (2%)

次の質問で今の自分の気持ちに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

	かなり そう思う	そう思う	少し そう思う	ぜんぜん そう思わない
6(1)他の小学校の人といっしょに次の活動をするのが楽しみだ	16 (37%)	5 (12%)	19 (44%)	3 (7%)
6(2)他の小学校の人と中学校で会うのが楽しみだ	13 (30%)	5 (12%)	21 (49%)	4 (9%)

資料 17 中学校への不安（A,B 小学校 6 年生）事後調査結果

あなたは、来年度の中学校生活を考えたとき、下のことがらはどれくらい不安ですか。自分の気持ちに一番近いところに1つだけ○をつけてください。

(学習面)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
1(1)新しい教科がふえること	17人(40%)	10人(23%)	13人(30%)	3人(7%)
1(2)授業時間が変わること(45分→50分)	20人(47%)	13人(30%)	6人(14%)	4人(9%)
1(3)勉強内容がくわしくなること	14人(33%)	8人(18%)	13人(30%)	8人(18%)
1(4)今より多くの人といっしょに授業を受けること	22人(51%)	11人(26%)	7人(16%)	3人(7%)
1(5)ノートの取り方など、学習の仕方が変わること	15人(35%)	13人(30%)	11人(26%)	4人(9%)
1(6)まとめのテストをする試験期間があること	7人(16%)	5人(12%)	20人(47%)	11人(26%)
1(7)教科によっていろいろな先生に教えてもらうこと	26人(60%)	15人(35%)	1人(2%)	1人(2%)
1(8)自分から進んで学習する機会がふえること	10人(23%)	15人(35%)	14人(33%)	4人(9%)
1(9)教科によって宿題の提出の仕方がちがうこと	11人(26%)	15人(35%)	12人(28%)	5人(12%)
(生活面)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
2(1)登校や下校の時間が変わること	21人(49%)	12人(28%)	9人(21%)	1人(2%)
2(2)業間休みがなくなること	22人(51%)	9人(21%)	9人(21%)	3人(7%)
2(3)いろいろなきまり(校則)があること	18人(42%)	8人(18%)	11人(26%)	6人(14%)
2(4)通学の距離や仕方が変わること(自転車通学など)	23人(53%)	8人(18%)	7人(16%)	5人(12%)
2(5)部活動が始まること	18人(42%)	13人(30%)	6人(14%)	6人(14%)
2(6)先輩や先生にけい語を使って話すこと	14人(33%)	11人(26%)	12人(28%)	6人(14%)
2(7)自分で考えて計画的に行動する機会がふえること	7人(16%)	20人(47%)	9人(21%)	7人(16%)
(人間関係)	不安ではない	あまり不安ではない	少し不安だ	不安だ
3(1)他の小学校出身の人と同じクラスになること	22人(51%)	7人(16%)	11人(26%)	3人(7%)
3(2)他の小学校出身の人と友達になること	19人(44%)	10人(23%)	11人(26%)	3人(7%)
3(3)他の小学校出身の人といっしょに学習すること	24人(56%)	8人(18%)	8人(18%)	3人(7%)
3(4)他の小学校出身の人といっしょに部活動すること	22人(51%)	9人(21%)	8人(18%)	4人(9%)

資料 18 中学校進学に向けて身につけたい力 (A,B 小学校 6 年生) 事後調査結果

あなたは、今の生活を考えたとき、下のことがらはどれくらい当てはまりますか。
自分の気持ちにいちばん近いところに1つだけ○をつけてください。

	とてもよく 当てはまる	すこし 当てはまる	あまり当て はまらない	ぜんぜん当ては まらない
4(1)学校やじゅくで与えられた宿題以外に自主的な勉強をしている	5人(12%)	21人(49%)	12人(28%)	5人(12%)
4(2)自分に合った方法で勉強をしている	13人(30%)	23人(53%)	6人(14%)	1人(2%)
4(3)問題を解くとき、いろいろな方法で考えている	9人(21%)	18人(42%)	13人(30%)	3人(7%)
4(4)苦手な教科の勉強に自分から取り組んでいる	14人(33%)	16人(37%)	9人(21%)	4人(9%)
4(5)授業中は先生の話集中している	23人(53%)	14人(33%)	6人(14%)	0人(0%)
4(6)宿題など、やるべきことをしている	36人(84%)	6人(14%)	1人(2%)	0人(0%)
4(7)自分なりにノートをきちんととっている	30人(70%)	10人(23%)	2人(5%)	1人(2%)
4(8)授業の後かたづけやプリントの整理をきちんとしている	30人(70%)	9人(21%)	4人(9%)	0人(0%)
4(9)班活動で自分の意見を言っている	20人(47%)	18人(42%)	4人(9%)	1人(2%)
4(10)全体の前で自分から進んで考えを発表している	13人(30%)	17人(40%)	11人(26%)	2人(5%)
4(11)みんなとちがう意見のときも発表をしている	12人(28%)	14人(33%)	12人(28%)	5人(12%)
4(12)人の考えと比べながら意見を言っている	12人(28%)	20人(47%)	8人(18%)	3人(7%)
4(13)きちんとあいさつをしている	33人(77%)	10人(23%)	0人(0%)	0人(0%)
4(14)地いきの方にけい語を使って話している	32人(74%)	10人(23%)	1人(2%)	0人(0%)
4(15)先生にけい語を使って話している	9人(21%)	23人(53%)	9人(21%)	2人(5%)
4(16)正しい言葉づかいで話している	20人(47%)	18人(42%)	4人(9%)	1人(2%)
4(17)相手の気持ちを考えて行動している	22人(51%)	16人(37%)	4人(9%)	1人(2%)
4(18)先生や友だちが話しているとき、きちんと聞いている	32人(74%)	8人(18%)	3人(7%)	0人(0%)
4(19)困っている人がいたら助けている	28人(65%)	14人(33%)	1人(2%)	0人(0%)
4(20)班活動のとき、みんなと協力している	34人(79%)	8人(18%)	1人(2%)	0人(0%)
4(21)提出物を決められた日までにしている	32人(74%)	10人(23%)	1人(2%)	0人(0%)
4(22)何が自分にとって大事なのか優先順位をつけて行動している	26人(60%)	12人(28%)	3人(7%)	2人(5%)
4(23)生活のリズムをくずさないように睡眠時間に気をつけている	19人(44%)	11人(26%)	11人(26%)	2人(5%)
4(24)5分前行動など、時間を考えて行動している	19人(44%)	19人(44%)	4人(9%)	1人(2%)

資料 19 仲間づくり
 他校との活動の期待度（A,B 小学校 6 年生）
 事後調査結果

他の小学校と小小連携の交流を行っています。他の小学校の 6 年生の児童の中で(1)～(9)に当てはまる人は何人ぐらいいますか。1 つだけ○をつけてください。

	0 人	1～3 人	4～5 人	6～9 人	10 人以上
5(1)顔が分かる	0 人 (0%)	12 人 (28%)	7 人(16%)	9 人(21%)	15 人(35%)
5(2)名前を知っている	5 人 (12%)	15 人 (35%)	11 人(26%)	6 人(14%)	6 人(14%)
5(3)顔と名前が両方分かる	5 人 (12%)	21 人 (49%)	8 人(18%)	4 人(9%)	5 人(12%)
5(4)自分からあいさつをしたことがある	12 人 (28%)	23 人 (53%)	5 人(12%)	2 人(5%)	1 人(2%)
5(5)自分から話しかけることができる	10 人 (23%)	23 人 (53%)	7 人(16%)	0 人(0%)	3 人(7%)
5(6)活動中、いっしょに遊んだことがある	15 人 (35%)	21 人 (49%)	4 人(9%)	1 人(2%)	2 人(5%)
5(7)活動中、なかよくしている	8 人 (18%)	25 人 (58%)	6 人(14%)	1 人(2%)	3 人(7%)
5(8)活動中、何でも話ができる	17 人 (40%)	16 人 (37%)	7 人(16%)	1 人(2%)	2 人(5%)
5(9)学校以外で出会ったときに話ができる	21 人 (49%)	16 人 (37%)	2 人(5%)	3 人(7%)	1 人(2%)

次の質問で今の自分の気持ちに一番近いところに1 つだけ○をつけてください。

	かなり そう思う	そう思う	少し そう思う	ぜんぜん そう思わない
6(1)他の小学校の人といっしょに次の活動をするのが楽しみだ	19 人 (44%)	8 人 (18%)	14 人(33%)	2 人(5%)
6(2)他の小学校の人と中学校で会うのが楽しみだ	17 人 (40%)	10 人 (23%)	14 人(33%)	2 人(5%)

資料 20 小小連携の有効性（A,B 小学校 6 年生）事後調査結果

A 小学校と B 小学校がいっしょに活動した次のそれぞれの取組は、他の小学校の児童の名前を覚えたり、児童と交わったり、仲良くなったりするのにどれくらい役立ちましたか？自分の気持ちにいちばん近いところに 1 つだけ○をつけてください。

	役に 立った	少し役に 立った	どちらでも ない	あまり役に 立たなかった	役に 立たなかった
7(1) 9月の人権教育講演会で自己紹介や話し合いをしたこと	17人(40%)	22人(52%)	3人(7%)	0人(0%)	0人(0%)
7(2) 修学旅行のビデオレターを作ったり、見たりしたこと	18人(42%)	19人(44%)	6人(14%)	0人(0%)	0人(0%)
7(3) 11月の音楽会や学習発表会のビデオレターを作ったり、見たりしたこと	16人(37%)	19人(44%)	8人(18%)	0人(0%)	0人(0%)
7(4) 11月の平和学習で、他の小学校の児童といっしょにグループ活動をしたこと	19人(44%)	18人(42%)	5人(12%)	1人(2%)	0人(0%)